

令和元年 第3回

武蔵野市教育委員会臨時会

令和元年8月22日

於 412会議室

武蔵野市教育委員会

令和元年第3回武蔵野市教育委員会臨時会

○令和元年8月22日（木曜日）

○出席委員（5名）

教 育 長	竹 内 道 則	教育長職務代理者	清 水 健 一
委 員	山 本 ふみこ	委 員	渡 邊 一 衛
委 員	小 出 正 彦		

○事務局出席者

教 育 部 長	福 島 文 昭	教育企画課長	渡 邊 克 利
指 導 課 長	秋 山 美 栄子	統括指導主事	小 澤 泰 斗
指 導 主 事	高 丸 一 哉	指 導 主 事	長谷川 美 穂
指 導 主 事	中 島 裕 人		

○日 程

1. 開 会

2. 議 案

議案第11号 令和2年度使用小学校教科用図書採択について

議案第12号 令和2年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳以外）採択
について

3. 協議事項

（1）令和2年度使用小学校教科用図書採択について

◎開会の辞

○竹内教育長 ただいまから令和元年第3回教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において清水委員、山本委員、私、竹内の3名を指名いたします。

これより議事に入りますが、7月3日に行われた第7回教育委員会定例会において、会議は公開で行うことと決定しておりますので、傍聴の方には既に入室していただいております。

本日は協議事項、議案の順に進めたいと思います。

◎協議事項

○竹内教育長 協議事項1、令和2年度使用小学校教科用図書採択の候補についてを議題といたします。

説明をお願いします。

指導課長。

○秋山指導課長 それでは、本日の協議事項でございます令和2年度から5年度に使用する小学校教科書の採択についてご説明いたします。

初めに、この小学校教科書採択について、本日に至るまでの経緯をご説明いたします。

資料1、令和2年度使用小学校教科用図書採択及び中学校教科用図書（特別の教科道徳以外）採択についてをごらんください。

義務教育諸学校では、各教科の授業において文部科学省の検定を経た教科書を使用することが義務づけられています。原則、教科書の採択期間は4年と決められており、義務教育諸学校が設置されている区市町村の教育委員会が採択をします。

今回の教科書採択を行うに当たり、教育委員会で円滑に採択が行えるよう、資料等を提供するために採択協議会を設置し、学識経験者やPTAの代表、教員など、さまざまな立場の方に委員としてお入りいただき、教科書に関する協議をしていただきました。その際、実際の見本本や、次に説明いたします教科別調査委員会で作成した資料を参考にさせていただきました。

教科別調査委員会は、採択協議会のもとに設置し、本市の小学校の教員の中から各教科の指導において、専門性の高い実績ある教員を委員として委嘱し、広い視野から教科書の種目ごとに調査研究を行い、調査研究資料を作成しました。また、各小学校に教科書を回覧し、校長を初め教員の方々から、教科書の内容について、問題解決の学習過程になっているか、児童が主体的に学べるか、用語の説明や資料が充実しているかなど、教科指導における視点や写真やイラストが適切か、教科書の重さに配慮があるかなど、細かい点にも多くのご意見をいただきました。

また、市民の皆様から広く意見をいただくために、去る5月21日から7月19日まで、各教科書の見本本を市役所指導課教育推進室、中央図書館、吉祥寺図書館、武蔵野プレイスで展示いたしました。その際、29の方が閲覧し、20件のご意見をいただきました。また、教育委員会に2件、要望書が寄せられました。これらは既にごらんいただいておりますが、本日は中央の机の上に置かせていただいております。

教育委員の皆様には、資料2にまとめておりますが、新学習指導要領における各教科の目標を踏まえ、これまで多くの時間をかけながら、これらの資料や意見、要望をごらんいただくとともに、採択の対象となる教科書に目を通していただき、それぞれの教科書の内容や構成、特色について教科書研究を進めていただきました。そして、8月8日には、非公開ではございましたが、第2回教育委員会臨時会を開催し、一つ一つの種目について十分に時間をとって、教科書を確認しながら採択候補の案についてご協議をいただいたところでございます。

本日、改めて小学校用教科書の全種目について、学習指導要領の教科順にご協議をお願いし、採択すべき教科書の候補をお決めいただきたいと思います。

初めに、事務局から採択協議会の協議結果や、それを踏まえて行われた8月8日の教育委員会臨時会における協議結果についてご説明した後、教育委員の皆様のご意見をいただき、種目ごとに1つの候補を決めるという形で進めていきたいと考えております。

そして、全種目の協議の後、議案として改めてお諮りいたしますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

それでは、各教科書の協議に入ります。

まず、国語について協議を行います。

説明をお願いします。

○小澤統括指導主事 それでは、国語についてご説明申し上げます。

国語の教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版の4者です。教科の目標や教材についての考え方につきましては、既にごらんいただいておりますが、資料2、小学校学習指導要領について、2ページをご確認ください。

新学習指導要領における国語科の主な改訂の要点としては、理解したり、表現したりするために必要な語句を身につけ、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにする指導の改善、充実。

論理的な思考力の育成につながる情報の扱い方に関する事項の新設や自分の考えの形成に関する指導事項の位置づけ。我が国の言語文化に関する指導の改善、充実。学習課程の一層の明確化を図り、各課程における学習の内容を改善、充実です。

さらに、教材については、資料2の2ページになりますが、3の(2)に教材は、次のような観点に配慮して取り上げることとして、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。伝え合う力、思考力や想像力を養い、言語感覚を養うのに役立つこと。科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つことなどが示されております。

採択協議会の協議では、学びの段階が2段階の東京書籍のような発行者と、4段階の光村図書出版のような発行者があるが、主体的・対話的で深い学びを考えると4段階は必要ではないか。

光村図書出版は、目次に情報のマークをつけて、情報活用能力に関する内容をわかりやすく打ち出している。手引きのところを比べると、東京書籍より教育出版のほうがわかりやすい。ただ、教育出版の学習の手引きは、経験が長い教員にとっては丁寧過ぎる。

光村図書出版は、4段階の学びになっていて手引きは丁寧だが、児童が自分で考えて取り組まないといけないようになってきているなどの意見が出され、光村図書出版がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところがございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 では、説明と先日の協議会の協議を踏まえ、国語で採択する教科書の候補

について、ご意見をお願いいたします。

清水委員。

○清水委員 それでは、各者の特徴的なことからお話しします。

まず、東京書籍です。各学年、目次の次に、その学年で身につけるべき言葉の力がまとめられていて、若手の教員にとって使いやすいのではないかとことです。そして、学年別で言うと第4学年のできがよいと。若手教員への配慮があつて、児童が学びたくなるような教材が多く、学習のまとめの工夫がよいと思います。そして、教材文の前にあるねらい、言葉の力、つかむというのは、学習者が見通しをもって学ぶことができるのではないかと思います。

次に、学校図書です。優しい文字、色合い、そして挿絵もとても魅力的です。若手教員への配慮が感じられ、低学年と高学年により教材が多いと思います。4学年の上では、初め文学教材でないものが続くので、ここについてはやりにくいように思いました。

続いて、教育出版です。5学年のディベートの手法を生かした話し合いのテーマが『A I』となっています。これは話し合いにとっては、とてもよいテーマだと思いました。他者では、2学年に出ている教材の『スイミー』と『お手紙』が第1学年の下に出ています。これは想像力豊かに読ませたい教材ですので、2学年で扱ったほうがよいと思います。教材文の後の確かめよう、考えようの下の児童のキャラクターのつぶやきが、学習者が考えようとするときの邪魔になっているのではないかと思います。

続いて、光村図書出版です。低学年、特に1学年では若手教員への配慮を感じました。全体を通して、深い学びにつながるよい教材文が多いです。特に第6学年です。さて、この光村図書出版だけQRコードが出ています。低学年では余り必要ないかなと思って見ておりましたが、高学年では授業で活用できるものがあります。まだ十分とは言えませんが、これから工夫してほしいと思いました。

4者を比較して、若手教員への配慮が感じられるのは東京書籍と学校図書ですけれども、深い学びにつながる教材が多いのは光村図書出版であると思います。武蔵野市の児童が学ぶ教科書としては、言葉の力をしっかり学ぶことのできる光村図書出版が、一番ふさわしいのではと考えます。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 国語の教科書のレベルが全体的に上がっていると感じました。単元の目標、目当てですね、その明確さと学びやすさも、各者の工夫が感じられました。主体的・対話的で深い学びをつくり出そうとすることが、編集方針に盛り込まれていたからだと感じています。

私も、各者のことを少しずつ申し上げます。

東京書籍です。東京書籍だけが、教材に話す、聞く、の取り組みがあつて、第1学年から第6学年まで、この話す、聞く、の大切さというのが貫かれていると思いました。特に第6学年の『よりよい対話について学ぼう』は、まとめとして配置されていて学びやすい動線になっています。

学校図書です。学校図書は、第4学年で書くことと読むことがつながっているということを証明する教材があると感じました。このつながりについて、私はとても大切だと思っていて、書くことを一生懸命したことで読めるようになる。また、読むことによって書けるようになるという、簡単に言うとそういうことになりますが、ここがしっかりと押さえられていると感じました。そこにはとても感心いたしました。

教育出版です。教育出版は、読みものの選び方がとてもいいなと感じました。難しいものもあります。児童がこれを本当にちゃんと学べるか、受けとめることができるかというせめぎ合いのようなものもあるかとも思いながら、そこでは学校内や、また家庭での学びを期待したいところでした。それから、かぎ括弧の使い方というような、これは大人でも何となくいかげんにしてしまいがちなところですけども、この使い方を練習する、学び直していくというような、そういう細やかな学び直しの姿勢を感じました。

それから、光村図書出版です。光村図書出版は、まずとにかくデザインが美しく、全体に落ちついています。この体裁というのは、とても大切な部分だと思います。児童が落ちついて、そしてときめきを抱きながら学習に取り組めるという点で、とても大切だと考えています。その点、光村図書出版の教科書の体裁は、とても美しくていいなと思います。それから、詩の楽しみ方が第1学年から第6学年まで貫かれて置かれています。第6学年のメディアと人間社会という記事があるんですけども、ここでメディアということ、人間社会ということを取り上げながら、そのコミュニケーションの練習をしていくという、そのことの必要性を大切に扱っているところ、これは本当に児童に示したい点だと思って感心いたしました。言語能力の育成や情報活用能力の記載など、それから今申し上げたデザインのことももちろんですけども、光村図書出版を推薦したいと

思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 私も、光村図書出版はよくできていると感じました。例えば、読む、聞く、話す、書くというアイコンが光村図書出版はかなり充実していて、ガイドになっています。それがテキストの途中にいろいろ出てくるという点でいいと思います。それから、もう一つは、読む、聞く、話す、書く、の他に、別の目次がついていて、どういうことを学ぶかということが、目次の段階でわかるようになっていることから、大変親切にできていると感じました。ですから、私も光村図書出版がいいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかは。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私も、総合的に光村図書出版を推薦いたします。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまで、今までいただいた皆様のご意見、それを伺った結果、国語につきましては光村図書出版の教科書を採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、国語にかかわる協議を終了いたします。

それでは、次に書写について協議を行います。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 それでは、書写についてご説明いたします。

書写につきましては、硬筆の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこととなっております。

書写の教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版の5者です。

資料2、小学校学習指導要領についての3ページをごらんください。

書写は国語の一部でございますので、書写としてだけの目標を示してありませんが、2、内容の（3）我が国の言語文化に関する事項の項目に、2学年ずつ指導内容が示されております。また、2、内容の取り扱いでは、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるように配慮すること。硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。各学年年間30単位時間程度を配当することと示されております。

採択協議会の協議では、光村図書出版は、手本のページに運筆の見本が示されており、始筆してから筆をその後どう動かすか、児童が意識できるところが教員は指導しやすいのではないか。サイズが大きい東京書籍は、余り望ましくないのではないか。教育出版は、他教科や実生活と関連させた内容の扱いが多いように感じるなどの意見が出され、光村図書出版と教育出版がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 では、説明と先日の臨時会での協議を踏まえ、書写で採択する教科書の候補についてご意見をお願いします。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 どの会社も、最初に姿勢が写真入りで入っているところはとてもよいと感じております。また、各お手本が、2ページにわたりまして入っているのがあります。習字の道具を置かして、それを置くと、机の上に置ききれないのではないかと心配しております。これが東京書籍、光村図書出版、日本文教出版で、各学年1つずつ。学校図書が、各学年2つから4つずつありました。教育出版は、2ページにわたってのお手本はございませんでした。

また、水書きシートについて、東京書籍、日本文教出版は、1学年、2学年についております。また、教育出版、光村図書出版は1学年だけ。学年図書はついておりませんでした。

そして、第3学年で筆の運びの力の入れぐあい、抜きぐあいにとってわかりやすいのが光村図書出版と教育出版でした。

総合いたしました、私は教育出版がよいのではないかと推薦いたします。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 私も各者について少しずつお話しします。

学校図書です。学校図書は、第4学年の曲がりと反りの筆使い、第5学年の教室でのやりとり、第6学年のいろは歌についてという内容がとても特徴的だと感じました。特に、第6学年のいろは歌については、市内の石碑のことを思いました。今、市内のお寺や神者の石碑が少しずつ、文化財に指定されていて、その石碑の文字がとても美しいんですね。それは拓本として用いることが、教科書のもとになっているということ思い出したんです。こんな教科書をもとに、その武蔵野市の石碑の碑帖を学べるといういいということも思いました。

光村図書出版です。漢字の点と画を丁寧に扱っているところが特によかったと思います。巻末にシールがついているんですけども、これはうまく使えるのかな。シールって、うれしいんですけども、うまく使うのは難しいなと感じて、これはどんなふうかと心配になっています。お手本にポイントとなる課題が書かれていて、そのポイントを意識しやすく、お手本が2色筆で書かれているのがよいと思います。

日本文教出版です。日本文教出版は、第1学年の始まりに指の運動があります。これはとてもおもしろいし、とてもよいと思いました。姿勢も大切ですけども、指というのもとても大切で、そこは感心いたしました。文字を書くときに、心を整えてしっかり書き始めましょうというところから始まっています。この教科書には、過剰と感じるところが余りないのですが、文字の魅力にはもう少し迫れるのではないかと思いました。

私は、先ほど申し上げましたように、お手本のポイントとなる課題が書かれていて、それを意識しやすいという点。それから、お手本が2色筆で書かれているという点から、光村図書出版を推薦しています。

○竹内教育長 ほかいはいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 全体的に光村図書出版が、いいと思いました。その一例として、光村図書出版では、キャラクターの猫が、筆の運び方の格好をして伸びたりとか曲がったりとか、わかりやすく書かれていて、なじみやすく、子どもたちが楽しみながら学べるのではないかと思いました。

それから、光村図書出版は各ページの右上に、この各単元で何を学んでいくかというガイドが、それぞれの単元に全部載っています。それで学び、今、何を学んでいるかというのがよくわかります。さらに言うと6年のところに書写ブックがついているのですが、その書写ブックは、それまでに学んできた、例えば手紙の書き方だとか、はがきの書き方とか新聞の書き方、ポスターをつくるときにどんなことを注意したらいいのかとか、具体的な例が最後にまたまとめて載っている。中学になってもそういう考えが使えるということで、その先の学びにつなげられるという点で、うまくまとめていると思いました。

今はSNSで、スマホでやりとりすることが多いのですが、きちんとした文章を書くというのは、自分の思いを書くということの大切さというのは、そういうところに出てくると思います。このような点で光村図書出版はいいと思い推薦したいと思いました。

○竹内教育長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 毛筆で平仮名を書くってなかなか難しいんですよね。特に結び、横結びとか縦結びってあるんですけども、なかなか難しいんですけども、光村図書出版には筆の面を意識することが大切だって出ているんです。筆の面を意識して指導するというのは、指導者側にとっても大事なことで、これが出ているというのはすごくいいと思ったんですが、それでは、筆の面はどちらを使うのかということまで踏み込んで書かれていると、なおよかった。ここのところで、平仮名が格好よく書けるか、格好よく書けないかというのが決まってくるので、こういうところを教科書では大事にしてほしいなと思います。

以上です。

○竹内教育長 さて、ここで光村図書出版と教育出版、意見が少し分かれたんですが、いかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私は教育出版を推しました。ほかの3名の皆さんが光村図書出版ということで、どれも児童にとってはよい教科書とっておりますので、私も光村図書出版で皆様と統一したいと思います。

結構です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、書写につきましては光村図書出版の教科書を採択する教科書の候補に決定したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、書写にかかわる協議を終了いたします。

次に、社会について協議を行います。

説明をお願いします。

○小澤統括指導主事 それでは、社会についてご説明申し上げます。

社会の教科書は、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者です。

教科の目標につきましては、資料2、3ページ、4ページをご確認ください。

新学習指導要領における社会科の主な改訂の要点としては、世界の国々とのかかわりや政治の働きへの関心を高めるような教育内容の見直し。自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫、努力等に関する指導の充実。少子高齢化等による地域社会の変化や、情報化に伴う生活や産業の変化に関する教育内容の見直し。社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて考察、構想することの重視。専門家や関係諸機関等と連携し、社会とのかかわりを意識した活動の充実などが挙げられます。

採択協議会の協議では、日本文教出版は第4学年の学習で、防災的な中身も取り上げた自然とのつき合い方も入っている。

東京書籍は、学習上、出てくる言葉の解説が割と丁寧な印象を受ける。

教育出版は、第5学年の米づくりで、多くの学校が行く南魚沼市が取り上げられているが、特に教科別調査委員会では話題とはならなかった。

東京書籍は、歴史編、政治国際編と分冊となっているが、扱いにくさはない。また、児童のランドセルは重くなっており、分冊されることで軽量化されることはよい。東京書籍は、今日的な課題としてSDGsが盛り込まれているなどの意見が出され、東京書籍がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 では、説明と先日の臨時会での協議を踏まえ、社会で採択する教科書の候補について、ご意見をお願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 社会は3者から出ているわけです。1者ずつ簡単に印象をお話ししたいと思います。私は、いつも気にしているのは、初めのガイドのところにどのような内容が出ているか、それが学びの仕方につながっていくので、そこをしっかりと書いてくれているといいと感じています。そういう観点も入れながら見させていただきました。

東京書籍については、学び方コーナーがしっかり記載されていて、見る、聞く、それから触れる等の前学年の学びの振り返りがきちんと載っているという点でいいと思います。

それから、問題解決の流れとして、つかむ、調べる、まとめる、広げるというのがありますが、最後の広げるは深い学びにつながるという学習過程がきちんと示されている。

5年と6年は分冊になっていて、5年は上下で分かれていて、6年はまた違う分け方で、政治と国際、それからもう1冊が歴史と、それまでと違う分冊の仕方になっている。その辺が、教え方としてはどうなのかと感じましたが、特に、そういうことは余り問題にならないだろうということをおっしゃっていただきました。ほかのテキストが随分重くなっているので、分冊にして軽くしていると感じました。

それから、国連で、2015年にサミットで決まったSDGsの話ですが、これは皆さん、ご存じだと思います。Sustainable Development Goalsの略で、全部で17個の国際目標があって、さらに169のターゲットを決めて活動しています。私もいろいろな委員会に出ると、社長さんがこのSDGsのバッジをつけていることが多いのです。これは今、一般的になっているわけですから、きちんと載っているといいと思いました。そういう点では、東京書籍はその17の目標のアイコン、色分けのアイコンがありますが、それがきちんと載っていて、いいと感じました。

教育出版ですが、学習のガイドとか前学年の振り返り、見方、考え方のコーナーがあって、しっかり書けている。それから、学びの段階として、初めに学習問題をつくろうというところがあって、問題意識を持って、それで課題に取り組むという特徴がよく出ていました。

ただし、SDGsについては、多少説明はあるけれども、肝心の17個のアイコンは特に載ってなくて、プラスアルファでいろいろ説明して調べなくてはいけないという点で

もう少し頑張って内容を記述していただけるとよかったですと思いました。

日本文教出版については、SDGsについて、この3者の中で一番よく出ています。そういう点ではよかったけれども、初めのところの学習ステップが、わかりにくく、学習の計画がありますが、わかりにくいと思いました。見る、調べる、読み取る等の活動の関連性が、先ほどの学習課程のステップ等との連携関係が見えにくいので、工夫されるといいと思いました。

全体的に見て、SDGsもしっかり掲載されていて、学習プロセスも明確な表示になっているという点で、東京書籍が一番いいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 教科書の重さや大きさをはかりました。社会科の教科書は、5年生、6年生が結構重くて、500グラム以上あるというのが心配かなと感じました。

東京書籍が、実は5・6年生の教科書が分冊になっておりまして、軽くしているかなと感じております。

また、3年生で扱う題材ですけれども、東京書籍が福岡、教育出版、神奈川、日本文教出版が愛媛と、武蔵野市から遠いところとなっております。武蔵野市の児童がぴんとくるかなと心配しております。また、東京書籍では、消防だったかな、三鷹の事例が取り上げられていて、身近でとてもいいと感じております。

教育出版、6年生の歴史のところですが、折り込みが2つありまして、はかってみたら1メートル10センチぐらいありまして、机に置きますと、児童の机でははみ出して扱いづらいのではないかなと感じました。

総合的に、私は東京書籍がよいと感じております。

○竹内教育長 ほかいはいかがでしょうか。

清水委員。

○清水委員 東京書籍ですけれども、第6学年の歴史編はオーソドックスな展開であるなと感じました。構成やバランスのよさを感じます。

それから、教育出版ですけれども、写真や資料が充実しておりまして、見やすい工夫がしてあります。第6学年の歴史においては、昭和とか戦中戦後の写真が多数掲載されていて、考えを深めることにつながるなと感じました。

それから、日本文教出版ですけれども、資料がとても詳しくなっています。特に単元導入のところの絵や写真などの資料は、主体的・対話的で深い学びにつながっていくなと思いました。特に第6学年の歴史単元は、日本文教出版の内容が、とてもよいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 皆さんが詳しく言ってくれましたので、私は一言。私は憲法の扱いとSDGsの扱いがどうなっているかということ視点を教科書を読みました。

憲法の扱いの大切なことは言うまでもありません。SDGsのほうは、持続可能な社会の作り手に必要な資質・能力というのが、SDGsにつながっているということの重要性を本当に感じずにはいられず、その点で私は東京書籍を評価して推薦しています。

以上です。

○竹内教育長 これも少し分かれて。清水委員は、どちらかという日本文教出版ということだったと思うんですが、他の方は東京書籍ということだったんですね。

いかがでしょう。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 歴史に限って言うと、私は日本文教出版が、一番、授業をする立場としては深い学びにつながるかなと思っております。構成とかバランスとかということ考えたときに、東京書籍はよいと思うんですね。教育出版もよさがあるんですけども、それぞれ今日は話しませんでしたけれども、この3者は個性的で違いがあるんです。先ほど各委員から出ている東京書籍のよさというのは、私もよく認識しております。ですから、個人的には日本文教出版がよいかなとは思いますが、市の教科書採択として考えていったときに、東京書籍というのは選んでよい選択肢かなと思っております。

○竹内教育長 それでは、お諮りします。

これまでにいただいた皆様の意見を伺った結果、総合的に考えると社会につきましては東京書籍の教科書を採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、社会にかかわる協議を終了いたします。

次に、地図について協議を行います。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 それでは、地図についてご説明申し上げます。

地図の教科書は、東京書籍、帝国書院の2者です。

地図は社会の中で活用する教科用図書でございますので、地図としてだけの目標を示してございませんが、資料2、4ページでございますとおり、第3、指導計画の作成と内容の取扱い、1（3）47都道府県の名称と位置、世界の大陸と主な海洋の名称と位置について、その都度、地図帳などを使って確認し、小学校卒業までに身につけ、活用できるようにすることや、2（2）全ての学年において、地図帳を活用することと示されております。

採択協議会の協議では、100万分の1サイズの中国地方を比較してみると、2者で情報量が違う。東京書籍はかなり情報が混み合っているように感じる。縮尺ごとの表現の違いを見比べる学習を行う際に、帝国書院が扱いやすいのではないかと。

山が多い地方を見比べると、東京書籍は全体的に茶色が強く、本当に高い場所と高くない場所の区別がしにくく感じる。帝国書院は、比較的高低差を明確に捉えやすい印象であるなどの意見が出され、帝国書院がよいのではないかと協議がまとまりました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、帝国書院を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、地図で採択する教科書の候補について、皆様のご意見をお願いいたします。

渡邊委員。

○渡邊委員 2者を見させていただいて、最近の地図は等高線や色分けだけでなく、山の形とかでこぼこ感が結構出ていて、その辺が昔、我々が学んだ地図と大分違う。それが、逆にまた災いしている部分もあると思うのです。地図というのは、等高線というのは非常に大切で、それをベースにして高低差などがわかるということなので、等高線をできるだけ明示してほしい。そういう点で、帝国書院のほうが、その等高線が、はっきりでもないのですが、薄く書かれているという点でよかったと思います。

それから、もう一つ大切なのは、自分の場所はどこなのかという認識です。それを思うと、武蔵野市がどのページに大きく出ているかということを見てみると、どちらも東京都とその周りというページに出ているのです。東京書籍は2ページで、それから帝国書院は3ページにわたって開くのですが、そこにそれぞれ武蔵野市として、一番大きい地図が載っていて、特に帝国書院は3ページになっていますから、非常にはっきり、それから市と市との境界線、これも明確に載っている。武蔵野市の形は、犬の格好をしているのですが、それがはっきりわかる。それから、隣接してどういうところがあるか、どういう境界線になっているかとか、そういう点で武蔵野市の子どもたちにとっては、帝国書院の地図のほうが良いと思うのです。

先ほど文字の話が出ていましたが、文字も東京書籍よりも帝国書院のほうがわかりやすく表現されていて、ごちゃごちゃ感が余りない。残念ながら東京書籍は、ごちゃごちゃ感があって、そういう点で武蔵野市の子どもたちにとっては、帝国書院の地図のほうが良いと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 小学生に戻ったら、1つやり直したいことがあるとしたら、地図帳と仲よくするという事なんです。もっと仲よくできたらよかったのになと思うことがあるんですけども、武蔵野市の児童には、ぜひ地図帳と仲よくして、旅するようなときにも地図帳を持って出かけるぐらいの人になってほしいなと思いつつ選びました。

東京書籍のおもしろいところは、比べてみようという統計ページがあるんですけども、そこに世界で使われている言語というのが入っているのがとてもよかったです。

それから、帝国書院。これはぱっと見たときの地図が見やすい、わかりやすいと感じます。先ほど渡邊委員も言われたんですけども、等高線で、やはり高さの高低差みたいなことが認識できる、その感覚を持つことが大切だと思います。

それから、これはちょっとしたことですけれども、大事な事だと思うので申し上げます。関東地方南部の地図で、西東京市と武蔵野市の位置が、実態と少し違って、並んでいるんですね。西東京市のほうがちょっと北側にあるはずなので、そこは少し残念だと思います。ご近所なので、特にそれを申し上げておきたいと思います。

しかし、帝国書院のほうは色彩への配慮もされていて、全体としては帝国書院を推し

たいと思っています。

以上です。

○竹内教育長 ほかに。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 渡邊委員もおっしゃったんですけれども、東京書籍と帝国書院の地図、同じところを並べて比較したとき、帝国書院のほうが見やすいんですね。どうして見やすいのかなって、比べたときに、ああそうかって思ったのは字体と字の大きさ、それから地図の中の余白と言っても平野部だと緑、山地だと茶色、そういう色の部分が多いのが帝国書院なんですね。東京書籍は、そういうところまで字がいっぱいあふれている。だから、地図を見たときに、見やすいという視点は非常に大事だなと思っています。

そういう理由で、帝国書院がよいのではないかと思いました。

○竹内教育長 ほかにいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私も見やすいという点で、やはり帝国書院を推薦いたします。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、地図につきましては帝国書院の地図を採択する教科書の候補に決定したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、地図にかかわる協議を終了いたします。

次に、算数について協議を行います。

説明をお願いします。

○小澤統括指導主事 それでは、算数について御説明申し上げます。

算数の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、日本文教出版の6者です。

教科の目標につきましては、資料2、4ページをご確認ください。

新学習指導要領における算数科の主な改訂の要点としては、日常生活、社会の事象、数学の事象から問題を見出し、主体的に取り組む数学的活動のより一層の充実。小中学校の教育を通じて、統計的な内容の充実。プログラミングを体験しながら、論理的思考

力を身につけるための活動の工夫です。

採択協議会の協議では、学校図書は割合の学習の際に、4マス構成図を扱っており、児童に混乱が起きるのではないかと。また、教科書のサイズが大きいものは机上で扱う際に取り扱いにくい。第5学年の正多角形の学習でプログラミングが扱われており、大日本図書は詳しく書かれている。

プログラミング教育の扱いについては、東京書籍は記載されているが、児童が学習するところから随分後ろになっており、扱いにくいところがあるのではないかと。

東京書籍の小学校第1学年入門期のノートがわりに扱える教科書は使い勝手がよい。入門期の学習のみを取り上げているので、開きやすく指導しやすいなどの意見が出され、東京書籍がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 では、説明と臨時会での協議を踏まえ、算数で採択する教科書の候補について、ご意見をお願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 それでは、各者の特徴からお話ししたいと思います。

まず、東京書籍ですけれども、第1学年が1と2という形で分かれていて、1が少し大きいんですね。これだけ大きいのでどうかなと思ったんですけれども、中を見てみるとそれぞれ文字も大きいし、全てが大きい。これは、小学校に入った1年生の不安を取り除くにはよいかなと思いました。学習の目当てが緑色の枠で、これも区別してわかりやすくなっています。若手、ベテランともに使いやすい教科書になっているのではないかなと。それから、マイノートをつくらうというのが、各学年、出てくるんですけれども、ノート指導に生かせると思いました。それから、主体的・対話的で深い学びを実現するための教科書の構成になっているということを感じました。

それから、大日本図書です。これは全学年1冊になっています。系統的な学びができるというメリットがあるんですけれども、重さでは、1年生から重たい教科書なので、そこのところは厳しいかなと思います。それから、第4学年の単元で、お菓子のパッケージの写真が出てきていて、このパッケージに商品名が、全部じゃないんですけれども、

一部、出ているんですね。子どもたちは、そういうものに気がそがれることがありますので、これはイラストにするか、あるいはどこの何というお菓子かわからないようにする配慮が必要ではないかなと思います。他者でも、そういうのを見受けられました。

それから、学年による差はありますけれども、確かめ問題、プライド、プラス1ですね——などの問題の分量が適当だなと思います。それから、ノートの書き方に触れているのもよいと思います。ただ、第5学年の平行四辺形の求積では、その学ぶ順序が少しおかしいんですね。これはこういうことが言えますよと言ってから、言えますかというのが次に出てくる。後で見ていただくとわかると思うんですけど、ここところが課題だなと思います。

それから、学校図書ですけども、教科書の構成がゆったりしていて圧迫感がないです。ごちゃごちゃしていると、算数、嫌だなと思ってしまったりするんですけども、余白が適度にあって、とても見やすい構成になっています。それから、学習のめあてがシンプルでわかりやすくなっています。残念ですけども、第6学年に考え方モンスターというのがあるんですね。これはもう見るからにアニメとかゲームの世界を感じさせるんですけども、学習の本質でないものが出てきているというのは、いかがなものかと思いました。

それから、教育出版です。第1学年のスタート、なかよしあつまれというのは見やすく、楽しく始められてよい配慮だなと思います。第1学年の教科書は、全体的に見やすい工夫がされています。それから、友達ノートというノート指導の見本ですけども、先生のコメントが入っているのは、この教育出版なんですね。これはとてもよいと思います。よい取り組みだと思います。ただ学年によっては、紙面がごちゃごちゃして見づらい学年がありましたので、そこところが気になりました。

啓林館です。新規に学ぶ言葉と学習のまとめの枠囲いの色を分けていて、わかりやすいなと思います。それから、第6学年の対称的な図形の説明が丁寧で、まとめの問題もすばらしいと感じました。ただ、第1学年の最初のどきどき学校という大きな絵があるんですけども、イラストとはいえ、ツクシが木よりも大きいんですね。こういったものは、大きさについては配慮してほしいなと思います。算数とは直接関係ないんですけども。

それから、日本文教出版ですけども、第1学年の最初の友達の登場人物が笑顔で明るい、楽しい学習が始まるというわくわく感が感じられて、これは第1学年でとても

大切だなと思います。字の大きさ、バランス、色合いがとても見やすいと思います。どの学年も、文字と余白のバランスがいいのではないかと。それから、巻末のしっかりチェック、ぐっとチャレンジ、もっとジャンプという3段建ての復習があるんですけども、これも工夫されてよいなと思いました。

ただ、残念なのが、これは他者でもあるんですけども、キャラクターの児童の子どもがいろいろと吹き出しでつぶやくんですけども、このつぶやきが学習者の考える機会を奪ってしまうんですね。やはり教科書は、ヒント程度はよいけれども、子どもたちが考えなくてはいけないことを教科書にどんどん載せていくというのは、やはりすべきではないと思います。

6者の教科書を比較して、全体を見た見やすさ、構成のよさ、まとめの問題の内容やボリューム、主体的・対話的で深い学びにつながるような学習展開という視点で見たときには、東京書籍が武蔵野市の児童にとっては一番合うと考えました。

以上です。

○竹内教育長 ほかはいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 いろいろ紹介します。

大日本出版、こちらは第1学年から第6学年までが1冊になっておりまして、大変重くなっております。

教育出版、啓林館、4年生までが分冊となっておりまして、扱いやすいと思っております。

また、東京書籍、学校図書、日本文教出版、5年生までが分冊、上下巻になっておりまして、6年生からは1冊、教科書は重くないほうがよいと思っております。

また、東京書籍、教育出版、折り込みが1年生からありまして、上手に扱われるかは心配しております。

また、東京書籍は、折り込みはあるが量は少なく、扱いやすいのではないかと考えております。使い勝手などを踏まえますと、東京書籍がよいのではないかと考えております。

以上です。

○竹内教育長 ほかはいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 とても興味深く読ませていただきました。算数がからっきしだった小学生のころに戻って読みました。各者、少しずつ申し上げます。

大日本図書は、比例、反比例がわかりやすいと思いましたが、問題数が少ないのではないかと思います。

学校図書です。学校図書は、以上、未満、平均というような算数の広い世界をつかむ、その手がかりになる言語が欄外に説明されているところがとても魅力的でした。第6学年の別冊で、中学への接続が意識されているところも、とても感心しました。

教育出版。教育出版の教科書は、全体的にたたずまいがよいです。分数を先に学んで、小数を後で学ぶというのが特徴になっています。第3学年でおこづかい帳をつけようという学習があつて、これはとてもいいと思いました。

啓林館は、今の世界のプロフェッショナルと算数の世界をつなげているところが、児童の未来につながっていく、夢につながっていくとてもいいページです。

日本文教出版は、これもいろいろなところがあつて、大きな数を扱うところで、お金とか、何かそういうものではなくて、世界の人口を取り上げていたり、数学とほかの分野とつなげていくということが実感できる教科書づくりになっていて、このことはとても大切だと思いました。第4学年の下巻に、数のあらし方と面積を求める工夫というところがあつて、つまり以前、学んだことがどれだけできるようになっているか、今に生かせるかということの学び、繰り返し学ぶところがとてもわかりやすいと感じました。

私は、東京書籍を推薦しています。それは、各者の中で一番問題解決的な学習を意識していると感じたからです。それから算数の、つまり数学的な物の見方、思考ということがあらわれているところ、そこにも魅力を感じたからでもあります。それから、これは一つ、教科書づくりのとても大切なルールだと思うんですけども、いろんな記事の出典があるんですけども、その出典が何であるかということが、きちんと記載されている、この姿勢も評価しています。それで、私は東京書籍を推薦したいと思っています。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 学び方という観点から、私もガイドとか、そういうところが気になるわけです。目次のところを見ますと、東京書籍と大日本の2者が、前の学習と後の学習と

ということで、目次のところに、その先、どういうことにつながっていくのかが明確に出ています。ほかの4者は、それが、前の学習は出ているのですが、後ろのほうは出てなくて、その先どういうことをやっていくかという関連が、目次のところでちゃんと見えるという点で、東京書籍と大日本はよかったと思いました。

ほかに皆さんおっしゃっていただいたので、プログラミングについて話します。プログラミングは理科で主に取り上げているのですが、算数のところでも取り上げている者があって、東京書籍は5年と6年でプログラミングの考え方の話が出ている。それから、大日本も6年、それから学校図書は6年で出ている。小学校の段階では、プログラミングというのは、言語をこういう手順があって、その手順どおりにやると、こういう結果が出るという内容を学んでほしいわけです。スクラッチという言語がでてきますが、それを中心にして学ばせるというよりは、こういう手順を踏んでいくといいよねという、そういう観点できちっと取り上げていただけるといいなと思っています。

そういう点では、学校図書は、数の並べかえということで、手順を中心にして書かれていて、それは興味深く見させていただきました

ただ、東京書籍も数の並びかえ、6年で同じようにあるのですが、そのところはスクラッチという言語の話は余り出てなくて、いいかな。ただ、5年生のほうでスクラッチのプログラミングの言語的な内容が出ているので、それは5年生で急にそういうのを学んでもちょっと大変かなと思いました。

全体的に見ますと、今の欠点もあるのですが、東京書籍がいいのではないかと思います。

以上です。

○竹内教育長 私も、委員の皆様が述べられたように、総合的には東京書籍がいいかなと思うんです。私は、全教科を通じて、子どもたちの意欲とか関心をどういうふうに高めるかなという、そういう視点を重要視して教科書の採択に当たっているんです。そういう意味で、山本委員も少し触れられていたんですが、教育出版の中で、単元の最初に、例えば平均だとか割合とか、日常のことに結びつけて問いかけがあるというのは、そういう意味でよいんじゃないかなと思いました。ただ、総合的に考えると、私も東京書籍がよいのではないかと考えております。

○山本委員 ちょっといいですか。

○竹内教育長 山本委員、どうぞ。

○山本委員 今、教育長が学校図書のことを言われたんですけれども……

○竹内教育長 教育出版です。

○山本委員 以上とか未満とかじゃなく。

○竹内教育長 じゃなくて。

○山本委員 ああ、そうか。

じゃ、ちょっと違うんですけれども、私、最後まで学校図書と迷っていたんです。でも、さっき清水委員も言われたんですけれども、学校図書の特に第3学年の上巻にチョコレートがいっぱい出てくるんですよ。算数に何となく苦手意識を持っている児童は、チョコレートの世界にいつちやうなという、その心配について言っておきたいと思いました。以上です。

○竹内教育長 いかがですか。最終的には。いかがでしょう。

○山本委員 最終的には東京書籍を選んだんです。学校図書のチョコレートのところも、ちょっとマイナスだったんですよ。

以上です。ごめんなさい。

○竹内教育長 渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 ついでにというか、先ほど清水先生がモンスターの話が出たのですが、キャラクターとか、アイコンの使い方というのは、これから工夫していかなければいけないと思います。キャラクターは何のために出しているのか。

実は、成蹊大学で教鞭をとっていたのですが、ソフトウェア開発をしていたんです。そのときに、あるそろばんのソフトなのですが、初めのうちは先生方は、キャラクターがいっぱい出てきて、楽しみながらやれるから、そのほうがいっておっしゃっていたんですね。だけど、やっているうちに、そういうところは省いて、本当に学びたいところを、それだけを入れてほしいということで、作り変えたときがありました。そういう点で、たくさんキャラクターが出てくるのはいいけれども、うまく整理して出しているだけといいと思っていますので、ぜひ今後、各者工夫していただきたいと思います。最小限必要な情報って何だろう、学んでほしいことって何だろう、それを明確にすると、その辺が明確になっていくので、そのためにこういうキャラクターを使いましょう、こういうアイコンを使いましょうとなってくると思いますので、出てくれる方がいいというわけではない。まずその辺、今後、また採択のときに気をつけて見ていきたいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 結論は変わらないですね。

○渡邊委員 変わらないです。東京書籍でお願いしたいと思います。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでいただいた皆様のご意見を伺った結果、算数につきましては東京書籍の教科書が採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、算数にかかわる協議を終了いたします。

次に、理科について協議を行います。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 それでは、理科についてご説明申し上げます。

理科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の5者です。

教科の目標につきましては、資料2、4ページをご確認ください。

新学習指導要領における理科の主な改訂の要点としては、知的好奇心や探究心を持ち、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を整理し、考察するなどの科学的に探究する学習活動を充実させること。理科を学ぶことの意義や有用性の実感。理科への関心を高めるため、日常生活や社会との関連を重視すること。プログラミングを体験しながら、論理的思考力を身につけるための活動を工夫することなどです。

採択協議会では、第6学年の電気の利用でプログラミング教育が実施されるコンピューターを扱ったプログラミングを体験する電気の利用において、センサーを実際に使った電気の利用を扱っているのは大日本図書と東京書籍である。大日本図書は、検討の流れやノートのまとめ方が大変わかりやすい。写真もきれいなのでよい。東京書籍は、仕事に結びつくという観点で見ると、つながりがあってよいなどの意見が出され、大日本図書がよいのではないかと協議がまとめられました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、大日本図書を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 では、理科で採択する教科書の候補について、ご意見をお願いいたします。
清水委員、どうぞ。

○清水委員 まず、全体を通して言えることからお話しします。

学びのプロセスを大切にした教科書が多くなっているなと思いました。ただ、主体的・対話的で深い学びということで考えると、予想や結果から考えられることを大事にしているかというところでは、各者に差があったと思います。

それから、算数でも申し上げましたけれども、児童が考えるべきこと、学習者が考えるべきことをキャラクターや、児童のイラストがつぶやいてしまっているというのが、ちょっと気になりました。もし載せるなら、ヒント程度にしてほしいなと思います。

それから、季節や分野を考えて単元配列をしてほしいと思いました。

それから、シンプルで見やすい紙面構成、これをお願いしたいと思います。

それから、QRコードが取り上げられるようになってきたわけですが、内容を見てみますと、まだまだ理科の授業に積極的に生かしていけるなという内容までには至っていないなど、各者、思いました。

それから、写真はどの教科書もよかったと思います。特に地学領域ですね。写真から考えることの多い地学領域では、やはりよい写真がたくさん入っているというのは、とても大切なことなのでいいと思います。

それでは、各者、長所と、それから残念だったところについて話をしていきたいと思います。

まず、東京書籍です。

まず一番気になったのは、さまざまな大きさの文字が出ています。大きい文字は非常に大きくて、小さい文字は小さい。大きい文字と小さい文字の間に、段階的にいろいろな大きさの文字があるのですが、これはちょっと見づらいです。やはり紙面が見やすいというのは、教科書にとっては非常に大切なので、これかなり厳しいなと思います。それから、ほかの会社でも多いのですが、東京書籍もキャラクターのつぶやきが非常に多いです。学習者の考えようという気持ちを阻害するなと思いました。それから、写真はとても充実しています。第5学年の流れる水の働き、第6学年の大地のつくり、とてもよいなと思います。それから、学びを生かして深めよう、これは内容が多くてよいと思います。理科のひろばも、楽しいなと思いました。

続いて、大日本図書です。

学習の流れが全ての単元で貫かれており、よいと思います。特に予想や結果についての考察というところが、学習の中で大事に扱われていると思います。ただ、第4学年の143ページ、ビーカーに入れた60度のお湯を注ぐ内容については、写真に手は写っていないんですけれども、児童が素手でビーカーをつかんだら、熱くて落とす子がいるかもしれません。ちょっと危険だなと思いました。それから、導入の写真で十分考えさせ、問題づくりができるように配慮されているのはいいと思います。単月末の確かめようは、学んだ知識を整理し、定着させるのによいと思います。そして、学んだことを生かそうでは、発展的に考えることの楽しさを感じることができます。導入の視点でいくと、その写真から予想して実験につながるような、よい写真が多いというのも長所ではあると思います。

それから、学校図書です。

3学年の影と太陽の単元について、ほかの会社は秋ですが、こちらだけ春、5月から6月なんですね。実は6月だと太陽高度が高いので、影が長くないんです。そして、この季節は、日差しが非常に強いので、子どもたちが日差しの中で影を見ていると目を痛めちゃうんですね。ですから、ここは単元の配列を考えていただきたいなと思います。それから、学習の過程で、予想や考察の扱いが十分とは言えないんですね。やはり学習のプロセスでとても大切にしてほしいなと思うところでした。

ただ、よいなと思ったのは、実は太陽、地球、月の距離を子どもたちが実感するって非常に難しいんです。月と地球の距離と地球と太陽の距離の違いをつかむためにボールを使って、校庭で実験をするんですね。児童がいて、月はこのぐらい、太陽はこんな遠いんだよって。これは非常に感覚として距離感をつかめるので、こういった体感を通して学ぶことを大事にするというのは非常によいと思いました。

それから、教育出版です。

第5学年の流れる水の働きでよい写真がたくさん掲載されています。そこから気づくように授業が展開できる。とてもよいと思います。それから、全体の構成、それから文字のバランスや大きさ、余白とのバランスなど、非常に見やすい教科書だと思います。ただ、予想、考察を大事にしているかどうかについていうと、この教育出版は学年によって大分差があります。特に第4学年は、十分ではないと感じました。それから、特に第5学年で感じたことは、3人の児童のキャラクターがそれぞれ予想し、どうしてそう予想したかという理由まで言ってしまうんですね。これは学習者の深い学びにつ

ならないので、ヒント程度にしてほしいなと思いました。

次、啓林館です。

学習プロセスの中で、予想が大事にされていないんですね。これはちょっと残念なところですが。しかし、文字の大きさ、余白など全体のバランスはとてもよいと思いました。そして、理科の広場において、各単元で補足する内容や発展的な内容が書かれているのはよいと思いました。

5者を比較したとき、導入のすばらしさ、それから予想や考察といった学びのプロセスを大切に扱った大日本図書が、主体的・対話的で深い学びの授業を実現する教科書としては、一番いいのではないかなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

渡邊委員。

○渡邊委員 私も、今までと同じように、学び方や、ガイドを中心に見させていただきました。それから、ここでプログラミングがかなり出ていますので、比較していきたいと思います。

東京書籍については、理科の学び方の実験、観察のところで安全面の記載がきちんと出ていて、それぞれ実験のところに応じた安全の注意書きが載っていて、わかりやすいと思いました。

それから、学び方のアイコンに関しては14種類、出ているのですが、それがアイコンという感じでなくて、人の顔が中心になって、そこに説明があるアイコンなので、非常にわかりにくい。まとまったところに説明がないので、このアイコンはどのようなときに使っているかという、説明が足りないために、どのような学び方をしたらいいかわかりにくい。その辺りを、もうちょっと工夫していただけるといいと思いました。

プログラミングについては、スクラッチ、先ほど申し上げた言語を使っているのですが、スクラッチの説明は特になくて、こういうふうにやっていきますということで載っていました。

人感センサーの例は、ほかのところとほぼ似ていますけれども、そういう点ではこの教材は身近でよいと感じました。

大日本図書については、手順、学び方で振り返ろうという項目があるのですが、それが非常にいい。要するに、これはP D C Aのサイクルを回していることにつながるわけ

ですから、それを実験の結果がうまくいかなかったときに、どのように考えたらいいのか、そういう振り返りというのがあって、それが非常にいいと思いました。

教科書の使い方という点で、うまくまとめられていて、初めのところに教科書の使い方の説明があるのですが、各単元の代表的な例を示して構成がわかるように掲載しています。これは非常に重要なことで、その後ろのページの構造を明示しているのです。そうすると、各単元で同じような構造で学んでいける、標準化されているというのかな、そのことがうまく工夫されていると思いました。

それから、プログラミングに関しては、人感センサーの教材で載っていますが、これは言語よりも手順が中心になっているので、そういう点ではうまく説明されていると思いました。

学校図書に関しては、科学の目を育てようという手順が示されていますが、多少ごちゃごちゃしている感があって、もう少しうまく整理していただきたい。手順の中にマークが入っているけれども、その説明が全体的にまとめられているといいと思います。

それから、プログラミングに関しては、LEDのランプをつけたり消したり、何回つけるかとか、だけなんです。子どもたちに余り興味を持たれないんじゃないか。もう少し複雑なほうがいいと思いました。

教育出版は、学習の進め方とノートのとり方が対になって、うまくできていると思います。アイコンやマークの説明がきちんと掲載されていてわかりやすい。ただし、プログラミングに関しては、残念なことに言語の勉強になってしまっているのです。小学校の段階ですので、言語を学ぶというよりも、きちんとした手順があることを学んでほしいわけで、スクラッチを入れるのはいいけれども、もっと工夫してほしいと思いました。

啓林館は、学び方について、教科書の使い方のタイトルでなくて、説明がきちんと載っていないという印象です。ただし、マークとかアイコンの説明とか手順は分けて書いてあるので、それはいいと思いました。

最後に、プログラミングのところですけれども、残念なのはシートの上に張りながら手順を説明していくだけになっていること。手順と結果は対になっていなければならないので、結果までわかるためには、実験的な内容でないといけないのです。これは正しい、これは間違っているというのではなく、こういうふうに並べるとこんな結果になるということが明確に見えない。シールで張っているだけです。そういう点で、プログラミングの勉強にはなっているけれども、その結果、間違った結果でもいいから、示せ

るような、学び方にしていきたいと思います。

総合的に見ると、私は大日本図書の内容が、武蔵野市の子どもたちに合っていると感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 全体にプログラミング教育の、プログラミングということの意味がはっきりとわかるというところの難しさを感じました。この教科書を使って学習していく中でということもあると思いますけれども、そこにはこれからのテーマがあると、各者の教科書を読んでいて思いました。

私も大日本図書を推したいと思っています。特に5年生の植物の実や種子という70ページのところですけれども、この視点を持つことは一生ものだと思いました。

1つだけ、4年生の97ページの湿度について、じめじめした空気とからっとした空気は何が違うというところですが、この日本の湿度の高いところのそのよさみたいなものも、こういうところに出ているといいなと思いました。

バランス的にも、私は大日本図書を推したいと思います。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私も、大日本図書がよいと思います。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、理科については大日本図書の教科書を採択する教科書の候補に決定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、理科にかかわる協議を終了いたします。

次に、生活について協議を行います。

説明をお願いします。

○小澤統括指導主事 それでは、生活についてご説明申し上げます。

生活の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書出版、新興

出版社啓林館、日本文教出版の7者です。

教科の目標につきましては、資料2、4ページをご確認ください。

新学習指導要領における生活科の主な改訂の要点としては、学年の目標や内容・項目を大きく3つに整理し、体験的な学習を通じて育成する資質・能力が具体的になるように見直した。思考、予測、工夫することなどを通して新たな気づきを生み出すことや、伝え合い、表現する学習活動を行うことで学びを振り返り、気づきの質を高める。生活科を中心としたスタートカリキュラムの工夫により、幼児期の学びを通じた総合的な学びから、より自覚的な学びへ円滑に移行していくことを促すことです。

採択協議会の協議では、学校図書は巻末資料が活用しやすい、光村図書出版は巻末の資料が少なく教科書だけでは足りないが、ゲストティーチャーの活用などで賄える。図書資料が多い少ないなどの発行者ごとの違いがある。低学年であれば資料の見やすさということが大切になるのではないかと。そういった点で光村図書出版は見やすく、扱いやすいなどの意見が出され、第1に光村図書出版、第2に学校図書がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦協議はまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、皆様のご意見をお願いします。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 生活科は、児童がそれまで持っていなかった見方や考え方を、それから感じ方を身につけていくということなんだなということ、教科書を読ませていただきながら感じることができました。家庭や地域の中でも学べる視点というものが、各者、置かれていて、そこはとても評価しています。

東京書籍です。東京書籍は、下巻の探検単元というのがあるんですけども、これは案内し過ぎずよくできています。

大日本図書です。大日本図書は、昔ながらのもの、道具、いろいろなものをよく取り上げていておもしろいけれども、もう少し掘り下げがあってもいいのではないかと思います。表紙はとてもおもしろいです。何かわくわくして、ちょっと触ってみたいと思います。

学校図書です。学校図書は、バランス、体裁、ボリュームがよくできています。写真もとてもよくて、インパクトがあります。下巻のダンゴムシの赤ちゃんの写真は、特にすてきです。

教育出版です。教育出版は、監修者が養老孟司先生で期待しました。ちょっとテーマ設定の弱さを感じたんですね。ただし、余計なことを言わずに、児童が捉えるという、そのことはいいとも言えるので、地域や自分の家庭で、このことを深めていくという意味ではふさわしいのかもしれない。

啓林館です。啓林館は、昔遊びにおもしろいものがたくさん出てきます。しかし、ボリュームがもう少しあってもいいと思いました。

日本文教出版は、知恵と技の宝箱というページがあって、予想や気持ちの使い方などが丁寧に扱われています。もしかしたら、低学年というか、下の学年にとっては始まり方が高度過ぎやしないかとは、ちょっと思ったりしました。

私は、光村図書出版を推薦しています。デザインが落ちついていて、ユニバーサルデザインが実現しています。文字組みがきれい。児童にとって落ちついた感じがあるのは、とても大切だと考えています。ホップ・ステップ・ジャンプという、その学習過程もわかりやすくよいと思います。全体にバランスがよいと思います。巻末の資料は少ないですけれども、その分、地域調べや図書館での調べ学習などにつなげることも可能なので、そういう過程が組み込まれているので問題はないと思います。主体的・対話的で深い学びを進めていく上で、デザインは大切だと思いますので、そこを最も評価しています。

以上です。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 簡単に申し上げます。全体的に身近なものをどれだけ取り入れられているかとか、今まで述べてきたように、学びのステップ、を中心にして拝見させていただきました。

最終的には、学校図書と光村図書出版とどちらがいいかという感じですがけれども、1者ずつ、お話ししたいと思います。

東京書籍は、絵やイラストが非常に優しい色合いで見やすいけれども、目次の後にガイドがほとんどなくて、どのように学んでいくか、説明していただけるといいと思いました。

大日本図書については、例示が多過ぎて、みずから深く考えようというところが不足している。それから、アイコン的な人物が登場するけれども、教科書の中での役割が余り決まってないと思いました。

学校図書は、目次が大変シンプルで見やすい。それから、もう一つの特徴は、いつでもこの単元を扱うかが目次のところに出ていて、それがあつた程度、幅を持たせて出ている。学びのプロセスも、どきどき、生き生きから、ふむふむ、にこにこつて、そういうステップで書かれていて、興味を引く内容になっていると思いました。

教育出版は、同じように目次のところに学ぶ時期が書いてありますが、ピンポイントで示されていて、北から南まで日本全国、時期が多少ずれますので、工夫がほしいと思いました。保護者向けのメッセージが書いてありますが、子ども向けにもメッセージをつくつてほしいと感じました。

光村図書出版は、表紙がこういう感じで、ほかにはない、表紙がつくれるんだと思いました。これを持ったとき、見たときに第一印象がとてもよかったんです。絵本のように、中身もきれいな内容になっています。巻末資料は、多少、他者に比べて少ないのは残念ですが、最小限のものはフォローしているので、コンパクトにまとめられていて、その足りない分は、先生方が工夫してフォローできる内容になっていると思います。先ほど山本委員がおっしゃつたように、学習の進め方でホップ・ステップ・ジャンプという進め方というのは単純化されていてわかりやすいと思いました。

啓林館は、ページの小口を見たときにわくわく・生き生き・ぐんぐんという分類は色分けされているんですね。その工夫はきちんとされている。そうすると、今の内容を学んでいるかが、わかりやすくなつていると思います。ただ、キャラクターのガイドが、多くて深い学びにつなげるのは難しそうだなと感じました。

日本文教出版ですが、目次のほか、教科書の使い方はしっかり掲載されています。でも、ガイドが多過ぎて、深い学びに結びつけにくいと感じました。学校図書と光村図書出版と迷いましたが、全体的に印象がよかったので、光村図書出版を薦めたいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 第1・第2学年で学ぶ生活科なので、色合いが穏やかで優しい絵の多い光村

図書出版がいいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 よろしいでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私も、光村図書出版を推薦いたします。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、生活については光村図書出版の教科書を採択する教科書の候補に決定したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、生活にかかわる協議を終了いたします。

次に、音楽について協議を行います。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 それでは、音楽についてご説明申し上げます。

音楽の教科書は、教育出版、教育芸術社の2者です。

教科の目標につきましては、資料2、5ページをご確認ください。

新学習指導要領における音楽科の主な改訂の要点としては、音楽科で育成する知識として、曲想と音楽の構造とのかかわりなどが明示されたこと。A、表現及びB、鑑賞の指導に当たって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動の充実を図ることを通して、音楽表現を生み出したり、音楽を聞いてそのよさなどを考えたりしていく学習を充実させていくこと、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習を充実することなどです。

採択協議会では、教育芸術社はさまざまな国の音楽などの特集がある。教育芸術社は、リコーダーの使い方など振り返りのページで学習したところがまとまっていて使いやすいなどの意見が出され、教育芸術社がよいのではないかと協議がまとまりました。

しかし、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、教育出版を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、委員の皆様からご意見をお願いいたします。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 まず、教育出版ですけれども、リズムに乗って体を動かすなど、楽しい活動を大事にしていると思います。ただ、1学年で童謡が初めて出てきていますが、これは難しいかなと思いました。それから、鍵盤ハーモニカやリコーダーの取り扱い方は学びやすいと思っています。プラスチックのページがありますが、こういうのを、こうやって写真にかぶせると、オーケストラのパートがわかるので、こういった工夫はよいなと思います。それから、第4学年の鑑賞で、モーツァルトの魔笛を取り上げていますが、紙面いっぱいには舞台の美しい写真が出ていて、ああオペラというのは、こういうところで演じられるんだなというのがわかっていいなと思いました。

教育芸術社ですけれども、トライアングルやタンバリン、鈴などの楽器の使い方がわかりやすく出ています。鑑賞をととても大事に扱っているなという感じがします。第6学年のブラームスのハンガリー舞曲を小澤とアバドと、それからチョンという3人の指揮者が、恐らく聞き比べをするんだらうと思うんですけれども、子どもたちはその同じ曲で違った演奏を聞くことによって、クラシック音楽は奥が深いなと感じる子がいると思うんですね。そういう意味では、とても画期的でいいなと思いました。それから、何を大切に歌を歌うかということが教科書に明確に書かれています。

教育出版と教育芸術社というのは、どちらもよさがたくさんあって、正直言って甲乙つけがたいんですね。トータルで音楽の楽しさとか、体を動かしてリズムを打ったりするというようなところは、どちらかというとも教育出版が少し大事に扱われているかなと思います。それから、両者、目指している方向性が少し違うんですけれども、音楽専科でない学級担任が指導するんだったら、どちらが指導しやすいかなという視点で見るとリズムとか、体を動かして音楽を楽しむとかいうところに重点が置かれている教育出版のほうかなと思います。非常に難しいところですが、私はどちらかというとも教育出版かなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 教育出版のほうは教育芸術社よりは、1ミリ、2ミリ大きく、それが気になりました。それから、単元の表記は左側に掲載されております。単語、振り返りがとて

もわかりやすくよかったと思います。

教育芸術社は、目次に色分けがあり見やすい。單元ごとに色分けがあり、わかりやすい。教育出版にもあるんですけども、教育出版のほう小さくて見づらかったですね。教育芸術社は、第3学年でリコーダーが丁寧でわかりやすい。

総合いたしまして、教育芸術社のほうを、私も推薦をいたします。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 私は、教育出版を推したいと思います。

先ほど清水先生も言われたんですけど、第3学年で音符の話、第5学年でオーケストラボックスのところにセロファンがかかっている、ここに第1バイオリンになってという、これは武蔵野市のオーケストラ鑑賞教室の取り組みの復習にもなってとてもいいと思いました。それから、何よりもリコーダーについて復習するときに、教育出版のほうを使いやすいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 この教科は2者の比較で、どちらも興味深かったのですが、教育出版の上のところに音楽のもとという項目で、例えばこのページだと音色、リズム、縦と横の関係とか反復、呼びかけと応えなど、学びたい内容、学んでほしい内容、それが具体的に載っているんですね。もう1者のほうは、全体的にはこういうことをやりましょうというのは載っているのですが、そのもとの内容は何かというあたりが欠けているので、学ぶ内容を明確に示していただいている教育出版のほうを選択したいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 さて、意見がちょっと分かれています、いかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 2者なので、両方とも拝見させていただきました。私は先ほど教育芸術社を推薦いたしましたが、ほかの3名の皆さんが、教育出版を推すのであれば、どちらを使っても武蔵野市の児童にとってはよいと思いますので、教育出版を推薦いたします。

○竹内教育長 それぞれの教育委員も大分悩まれたようだと思います。甲乙つけがたいというような言葉もありました。私もかなり、この教科については甲乙つけがたい面もあ

るんですが、もう一つ、中田喜直さんと野口雨情さんという武蔵野のゆかりの音楽家の紹介があるということであると、子どもたちがそういう面で親しみやすいかなということもあって、教育出版、若干、私としては軍配が上がるかなというところがございます。

それは、それとして皆様のご意見を伺った中では、音楽につきましては教育出版の教科書を採択する教科書の候補と決定したいと思います、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 では、そのように決定いたします。

以上で、音楽にかかわる協議を終了いたします。

次に、図画工作について協議を行います。

説明をお願いします。

○小澤統括指導主事 それでは、図画工作についてご説明申し上げます。

図画工作の教科書は、開隆堂出版、日本文教出版の2者です。

教科の目標につきましては、資料2、5ページをご確認ください。

新学習指導要領における図画工作科の主な改訂の要点としては、造形遊びをする活動と絵や立体、工作にあらわす活動の指導事項の違いを明確に示し、それぞれの活動を通して思考力・判断力・表現力等や技能を身につけることができるようにする表現領域の改善、第5学年及び第6学年の鑑賞の対象に、生活の中の造形を位置づけ、生活を楽しく豊かにする形や色などについての学習を深めることができるようにする鑑賞領域の改善、形や色などを造化的な視点で捉えることについて、図画工作科において育成を目指す知識としての位置づけの明確化です。

採択協議会の協議では、開隆堂出版では高学年で専門用語を扱っている部分がある。開隆堂出版は、QRコードで出てくる写真が手本としてのイメージが弱いと感じられるが、逆を言えば発想を広げていくことにつながる。手本という教科書から離れて、もっと児童の自由な発想を広げたいということからいうと、開隆堂出版がよいかもしれないなどの意見が出され、開隆堂出版がよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、開隆堂出版を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところがございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 では、委員の皆様のご意見をお願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 まず、開隆堂出版です。

体の感覚を大事にして遊ぶという色彩が強いと思います。みんなでつくるということ
を大きく取り上げています。掲載されている児童の作品例ですけれども、とてもダイナ
ミックなんですね。言い方を変えると、子どもらしさ、子どもだからできる表現という
のを感じます。それから、鑑賞ですけれども、アンドリュー・ワイエスとミロの比較と
いうのは、これは非常におもしろいなと思いました。視点を決めて比べることによって
違いが見えてくるなど。ただ、マグリッドとパウル・クレーの絵の比較もあるんですけ
れども、これは、小学生だと比較して比べて考えていくのは難しいなと思いました。

それから、日本文教出版ですけれども、楽しくつくるというのはわかりやすいなど。
個人でつくるというのが、どちらかというところ強く感じられました。ただ、児童の作品例
が小ぢんまりとしていて非常にまとまっているんですね。ただ、これがよさになるのか
なという気がしました。第5・6学年の下で、音のする絵という単元があるんですけれ
ども、これはとてもいい単元だなと思います。扱いやすい教材が多くて、教科書として
も文字のバランスなど、とても写真とのバランスなど見やすいけれども、わくわく感が
余り感じられないなと思います。

そういったことで、この2者を比較していったときに、児童の創作意欲を高める、そ
ういった作品例が出ていて、鑑賞として選ばれている作品もなかなかよい開隆堂出版が
武蔵野市の教科書採択としては適しているのではないかと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 開隆堂出版は、QRコードがあるんですが、使い勝手がよくないと感
じました。また、第1学年から第6学年まで、安全なものの使い方を掲載してとてもよいと感
じております。

それから、日本文教出版は、右ページの上に3つの目的を掲載しておりまして、目的
に緑色がついていて、比較的わかりやすく表示されていると感じております。また、気
をつけようや、片づけようのことも書いてありまして、とてもこれはよいと感じており
ます。

2者、とてもどちらもよさを感じるんですが、私は日本文教出版の方がよいと感じられました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 私も、迷いましたが、開隆堂のほうは、友達と協力して楽しくつくろうという感じがあらわれている。

それに対して、日本文教出版のほうは、楽しんで活動してほしい、そういう狙いがある。深い学びとか対話的な学びについて考えると、開隆堂のほうが、一緒に協力しながらやる部分とか、お互いに話し合いながらやる部分が入っていて、そういう点では開隆堂のほうがいいと感じました。

ただ、日本文教出版も、非常に迷うところなんです。例えば木版のつくり方、それからどんなふうにやっていくのか。結構、子どもたちの展覧会へ行くと、版画の種類が多いので、そういうところでは日本文教出版は、丁寧に説明していると思いましたので、迷ったところですけども、最終的には開隆堂にしたいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 本当に難しかったです。細かいところを一生懸命比べたりして、児童の意欲が引き出されるヒントという点で、私は開隆堂出版を推すことにしました。

例えば、図画工作を苦手としている子どもが、掲載されている作品をまねしたりするところから自信を取り戻したり、こういうことかっていって、自分を開発していくというような、そういう意味のヒントです。

以上です。

○竹内教育長 ここも分かれましたが、いかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私も悩みました。よくよくもう一回確認してみたところ、開隆堂出版のほうは、子どもに創造力や意欲を引き出せるダイナミックなところがあると感じました。私も皆さんと同じく開隆堂のほうへと意見を変えさせていただきます。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

皆様、大分悩まれたところですが、最終的にいただいたご意見を伺った結果、図画工作につきましては開隆堂の教科書を採択する教科書の候補と決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、図画工作にかかわる協議を終了いたします。

次に、家庭について協議を行います。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 それでは、家庭についてご説明申し上げます。

家庭の教科書は、東京書籍、開隆堂出版の2者です。

教科の目標につきましては、資料2、5ページをご確認ください。

新学習指導要領における家庭科の主な改訂の要点としては、内容構成を、A、家族、家庭生活。B、衣食住の生活。C、消費生活、環境の3つにしたこと。第5学年の最初に、A、家族、家庭生活を履修させるとともに、2学年間で1から2の課題を設定した実践的な活動を、家庭や地域等で実施することが新設されたこと。少子高齢社会等の社会の変化や、持続可能な社会の構築等に対応した学習内容を充実したことなどです。

採択協議会では、東京書籍はA4サイズの教科書を開いてしまうと机の上がかなりいっぱいになってしまっていて、布を広げたり裁縫道具を置いたりする際、机の上が狭くなってしまっているのではないかと懸念されている。家庭科の教科書は見ていると楽しく、東京書籍は資料集として見るとさまざまな情報が掲載されていてよいと思う。東京書籍は、写真は大きくて見やすく、文字の数も多い。指導する際、焦点化が図りにくくなることや児童の興味・関心が散ってしまい、理解できない児童も出てくるのではないかと懸念されている。東京書籍は、消費者教育のページを開隆堂出版と比較して多く使っており、授業時間数をかけているので、製作や調理に十分な時間をかけることができない。

開隆堂出版は、プログラミング教育に関して、日常生活とのつながりで記載が入っているなどの意見が出され、開隆堂出版がよいのではないかと協議がまとまりました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から、各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、開隆堂出版を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところがございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、皆様のご意見をお願いいたします。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 私は、食の実践、特にお弁当づくりのことで2者を比べてみました。

東京書籍のほうは、福島のある小学校の取り組みとして、全校の児童が学校にお弁当を持っていくという、お弁当の日というのがあるという、そのことが出ています。そのお弁当には約束があって、自分自身がお弁当にかかわることになっています。

開隆堂は、自分でつくろうということになっていて、まず食物というものは何か、調理の原理、それからその実践の課程についても詳しく出ています。ですから、三色ご飯弁当をつくることになるんですけども、ツナそぼろ、いり卵、インゲン、ニンジンなので4色ですけども、そぼろ弁当がつくれるようになっているんです。ゆでたり、いためたりというところには、12ページから19ページのところを参照するように案内されていて、50ページ、51ページのところでご飯炊きのところを参照するようになっています。そうして全体としてお弁当ができるという、そこはとてもよくできているなと思いました。

いためるというところに、卵のいためが出ていますんですけども、それは本当はスクランブルエッグなんですけれども、いため過ぎちゃっているんで、三色ご飯にはいいんですけども、スクランブルエッグにしてはちょっといため過ぎているというところがありました。

それから、もう一つ、包丁の扱いです。包丁の扱いは、どちらも丁寧に扱っています。開隆堂のほうは、一步、包丁の持つ怖い一面のことが詳しく出ているかなと思いました。包丁の渡し方というところでは、包丁の柄のほうを持って友達に渡すというのだけではなくて器に載せて渡す。そういう何か集団でするときは、そういうほうがいいというようなことがちゃんと出ていて、それがまた別のページの防災安全教育のほうに参照されています。

それから、2者を比べたもう一つのテーマは、持続可能な暮らしのことです。

東京書籍は、持続可能な暮らしのところに、一緒にお金の使い方というのも入れています。つまり、上手に選ぶために考えようという消費者の役割について取り上げているんですね。必要なものを手に入れるためには、買うばかりではなくて、譲ってもらう、自分でつくる、シェアする、修理する、借りるなどを考えるというような視点なんですね。

それが、開隆堂にいきますと、持続可能な社会を生きるということと、生活を支えるお金と物ということは別々に取り上げられています。ですから、持続可能な社会ということが、一つ際立っているともいえます。生活と環境のつながり、物やエネルギーの使い方、環境を考えた生活を続けようということが際立っています。そこは、私、開隆堂を評価しました。

どちらもとてもよくできていて、これは児童だけではなくて、保護者も、大人も、周りの大人もいろいろ学べるなというのが感想です。開隆堂は、その持続可能な社会という、その生きるという深い視点の捉え方もそうですけれども、絵が落ちついていて、暮らしの、あと日常の大切な情緒をよくあらわしていると思いました。生活の理想的な一面、それが描かれていると思って、私は開隆堂を推したいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 衣食住の基礎的・基本的な資質を育成するということでは、どちらもよくできているなと思います。

東京書籍ですけれども、情報量が多くて、道具の使い方や裁縫の初歩など、とても詳しく述べられています。消費者教育も丁寧に行われていて、さまざまなマークが紹介されています。だしのとり方なども、かつおぶし、煮干し、昆布など詳しく書かれています。イラストが漫画的だなと思いましたけれども。

開隆堂のほうは、情報量は東京書籍より少ないんですけれども、その分、理解しやすいように、わかりやすいまとめ方をしています。買い物においては、消費期限と賞味期限の違いが紹介されていたり、優しいイラストで好感が持てます。

私は、高学年で家庭科を何回も持ったんですけれども、家庭科は活動が中心になります。そうすると、教科書で学ぶ時間というものもあるんですけれども、非常に限られた時間の中で教科書を見ていく。そういうことで考えていくと、東京書籍はボリュームが多過ぎる。非常に詳しく書かれていて、内容は非常に濃いと思うんですけれども、授業で使うということであれば、イラストなど上手に使いながらわかりやすく説明してある開隆堂出版のほうを使いやすいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○**渡邊委員** 先ほど山本委員からSDGsの話がありましたけれども、社会のところでもお話ししたように、SDGsは必須だと思います。残念ながら、それが両者とも出てないですね。次回は、きちんと出してほしい。いろいろな科目で学ぶというのは必要だと思いますので、せっかく持続可能な社会という題目の単元があるにもかかわらず、出てないというのは非常に残念です。

それから、2つ比べた開隆堂出版のほうは、初めのほうに安全に実習をしようということで、第一に安全をうたっている。これは理科の実験にもつながりますが、まずは何にもまして安全です。そのもとの、各単元があるということで、開隆堂出版のほうは、そういう意味での安全について表立って配慮しているので、私はこちらの開隆堂出版のほうを薦めたいと思います。

以上です。

○**竹内教育長** ほかいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○**小出委員** 私も扱い方の点によりまして、開隆堂出版を推薦いたします。

○**竹内教育長** それでは、お諮りいたします。

今までいただいた皆様のご意見を伺った結果、家庭につきましては開隆堂出版を採択する教科書の候補に決定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**竹内教育長** それでは、そのように決定いたします。

以上で、家庭にかかわる協議を終了いたします。

次に、保健について協議を行います。

説明をお願いします。

○**小澤統括指導主事** それでは、保健についてご説明申し上げます。

保健の教科書は、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいの5者です。

保健は、体育の中の領域の1つでございます。既に教育委員の皆様にはごらんいただいておりますが、内容につきましては資料2、5ページ、6ページをご確認ください。

新学習指導要領における体育科の保健領域の主な改訂の要点としては、自己の健康の保持増進や回復等に関する内容の明確化、不安や悩み等、心の健康への対処やけがの手

当てを技能として新たに明示したことです。

採択協議会の協議では、自然災害は多くの発行者で掲載されている。学研教育みらい、光文書院はがん教育を発展で掲載している。歯や目の健康、スマホ依存などの生活リズムに関することやがん教育、運動習慣についてなど、子どもが気づけるような教科書がよい。学研教育みらいは見やすく感じる。保健の教科書は、書き込む場所が多い。1つの学習を45分でまとめ、深い学びを実現するためには振り返りが重要。1時間の内容が見開き1ページの中で取り組める学研教育みらいがよいなどの意見が出され、学研教育みらいがよいのではないかと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、学研教育みらいを候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、各委員からご意見をお願いします。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 どの教科書もそうだったんですけども、保健の教科書を通してみんなで話し合い、武蔵野市でもマイノリティーを悩みや問題として終わらせないことが大切であるということ。ともに学ぶ大人にも考え方の方向性を育てられるようにしたいという、そこにたどり着くことができたことが幸いでした。

それで、前回の教科書採択のときに、思春期の体つきの変化に関する表や写真の選び方について考慮したいということをお話したことを覚えています。そして、いきなり水着が出てきたりというのでない、例えば体育着を着た成長の過程が出てきているほうが、いいんじゃないかしらねという話をしたことを覚えています。しかし、それで採択の決定に導けるとは考えていませんが、そのことも思い出しながらいろいろ見ていきました。

東京書籍です。東京書籍は、よりよく生活するための生活について、学びを深めることができるようにつくられています。さまざまな依存症についてきちんと取り扱っています。

大日本図書です。大日本図書は、丁寧に一つ一つの学習を取り上げています。しかし、問題の取り上げ方にもう少し強弱があってもよいのではないかというふうに感じました。それから、第5学年、6学年で、依存症についてももう少し触れていただけたらという考

えを持ちました。タブレットやパソコンの使用において、目の健康だけではなくて、インターネット依存についても、もう少し掲載が欲しかったと思います。深刻な問題を認識する機会を、教科書の中につくっていただけたいのではないかと思います。

文教社です。文教社は、エイズと生活習慣病について詳しく扱っているところがとてもよいと思いました。それから、唾液、唾液が病気を防ぐ働きがあるというところを取り扱っているんですね。本当に人の体の複雑さ、神秘みたいなものを子どもたちは、この教科書でも学んでいくことになるわけですが、こういう本当に身近な唾液がこれほどの働きをするということが学習できることは、とてもよいと思いました。

光文書院。光文書院は、人の成長、性の学習を行う上で、イラストや写真などの選びの感覚がとてもよくて、ふさわしいものが掲載されていると思いました。その配慮がとても評価できると思います。それから、地域の保健活動の取り組みについても掲載されています。しかし、それぞれの記事に関して、もう少し深掘りでもよいのではないかと思います。

そして、私は学研教育みらいを推しております。先ほど聞いていただきました思春期の体つきの変化も体育着で掲載されています。パソコンやタブレットなどの使用によるインターネットの依存症を扱い、健康の害についても触れています。人々の健康を守るさまざまな仕事について詳しく掲載されています。医師、薬剤師、保健師、心理カウンセラーなどの中に、学校の先生たちも入っているところは、とても大事だと思いました。授業の進め方に関して、恐らくこれは先生と児童が協力し合って進めていくのに進めやすさがあり、必要なことがバランスよく置かれているのではないかと思います。学研教育みらいを推したいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 東京書籍は、学習の流れが単元の初めに示されて、とてもわかりやすい。また、グラフが多く掲載されて、またわかりやすかった。

大日本図書。教科書が小さいから文字も小さいこともありました。それから、私はどこかなというページの取り扱いがよくわからなかったですね。

それから、文教社。ページ数が少なく物足りなさを感じる。また、飲酒のところで、飲酒をするとけんかするという表記があって、ちょっとこれが気になりました。

それから、光文書院。調べよう、考えよう、話し合おうがあるが、まとめようがある教材とない教材があることが気になります。また、分量が多いと感じられました。

学研教育みらい。学習の進め方はわかりやすい。また、こちらも飲酒のところで、飲酒をするとけんかをするという表記があつて、私は気になっております。

これを含めて、総合的に判断をして、学研教育みらいが私はよいと感じております。以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 私も、学研教育みらいがいいと感じました。

それは、先ほど山本委員がおっしゃったように、キャラクターがたくさん出てきて、10人出てくるのは東京書籍と学研教育みらいなんですけれども、その中でそれぞれの役割が明確なのです。だから、先生というのが出てくるというのは、ほかの科目ではどうかかなと思ったのですが、ここでは先生が子どもたちに、相談の相手になるんだという、内容がきちんと入っていてよかった。それから、学習の進め方も、単純明快に示されていて、特に最後にもっと知りたい、調べたいという項目があつて、さらに深い学びに結びつけられるという点で、学研教育みらいを推したいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 レイアウトとか絵の色とか、文字についても学研教育みらいはいいのではないかなと思います。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、保健につきましては学研教育みらいの教科書を採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、保健にかかわる協議を終了いたします。

次に、外国語について協議を行います。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 それでは、外国語についてご説明申し上げます。

外国語の教科書は、東京書籍、開隆堂出版、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館の7者です。

教科の目標につきましては、資料2、7ページをご確認ください。

新学習指導要領における外国語科、英語の要点としては、学校間の学びを接続させるため、国際基準を参考に小・中・高等学校一貫した5つの領域、聞くこと、読むこと、話すこと、やりとり、話すこと、発表、書くこと別に目標が設定されていること。小学校では、中学年から聞くこと、話すことを中心とした外国語活動を導入し、外国語になれ親しませ、学習への動機づけを高めた上で、高学年から段階的に文字や定型文の読むこと、書くことを加え、教科として外国語科を位置づけ、指導の系統性を確保したことです。

採択協議会では、写真とイラストの配分を視点に見ると、東京書籍、光村図書出版、教育出版は写真が多い印象を受けた。外国の様子などは実際の写真を見せたほうがよい。授業を行う際には、チャンツや歌から授業に入るのは大切だと思う。光村図書出版と教育出版、学校図書がよいと思った。教育出版は、日常的なシーンがテーマになっているので、わかりやすい。光村図書出版の付録は充実しており、單元ごとにまとまっている。学校図書は、英語を学ぶ必要感が感じられ、英語を学ぶ意識づけがしやすい。学校図書は、英語を学ぶ必要性は感じるが、大人向けの印象を受けた。レベルが高いのではないかなどの意見が出され、光村図書出版、教育出版、学校図書がよいのではないかと協議がまとまりました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、各委員のご意見をお願いいたします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 それでは、順番に申し上げたいと思います。

東京書籍は、A4判で大きいけれども、薄いという点が特徴だと思います。今まで述べてきたように、ガイドのところがどれだけしっかりしているかという観点でいくと、東京書籍は、音に出会うからスタートして、会話になれるとか、コミュニケーションを

楽しむ、世界を広げる、それから最後に学びを確かめる、というステップを追って学ぶ段階があるという点では、いいと思いました。

ただ、例えば教科書に使われている記号が多少多くて、もうちょっと少なくして目立つようにするといいと思います。それから、別冊でPicture Dictionaryというのがありますが、それが最後に和英の辞書もついていて、5・6年の、両方で使えると思いますが、非常にいいと感じました。単語リストは、各者、出ていますが、そういう点では、別冊になっていて単独で2年間使えるという点でいいと思います。

開隆堂出版ですが、学習の進め方についてはきちんと載っているわけではなくて、初めにキャン・ドゥマップというのがある、各単元で何が学べるか、何ができるようになるか、そういう観点では載っていますが、どのように学ぶかという点が、抜けていると思います。この者の特徴は、巻末に単語のリストが載っていますが、ほかの者は分類別に、例えば数字とか動きとか、幾つかの 카테고リーに分けて載っています。この者だけ単語リスト、ABC順に載っています。自分たちが学んだときには、英語の辞書はABC順に載っているのが普通だと思っていたのですが、最近はそうではない。開隆堂出版はABC順になっていて、特徴は出ていると思いました。

学校図書は単元の例をページに載せながら、学習の流れがきちんと示されていて、学びの構造はしっかり示されているということは特徴かと思います。最後に、ほかの者でよくカードを切り取って使うようになっていますが、ここはカードは特に用いてないので、学習するときはどうやるのかなという疑問は残りました。

三省堂ですが、テキストの使い方に関しては、ホップ・ステップ・ジャンプという3段階で、シンプルに学びの段階を示しているという点ではよくできていて、ページ構造がしっかりつくられていると感じました。ただ、ワードリストの分類はありますが、文字が小さいのもう少し大きくしていただけるといいと思います。

教育出版は、テキストの初めに学習目標は示されているのですが、進め方やページ構成が、もう少ししっかり書いていただきたいし、目次はガイド的な内容が少ないので、わかりにくいと思います。キャラクターが8人出てきますが、いきなりレッスン1で、紹介されているのです。多分、自己紹介をやっているんだと思うのですが、そこで初めて紹介される。でも、テキストなので、こういうキャラクターが出てきたら、このキャラクターは、どういうことか出てくるのかという説明があるともう少しわかりやすくなると思います。

最後にマイワードバンクというのがあって、単語を分類して載っています。この者だけ5年と6年で分類の仕方が多少違います。英語を統一的に学ぶというときは、5年で学んだこと、それから6年で学んだこと、つながりがあるわけですから、同じ分類でやっていたらかないと、非常に使いにくい単語帳になっていると思います。

光村図書出版は、教科書の使い方がしっかりページの事例を用いながら書かれていて、ホップの次にステップが、1段階、2段階で2つあって、ジャンプで、合計4段階で示されていて、学び方がしっかりしている。それから、ユニットで学習した内容と、ユニット以外の学習という項目が、深い学びにつながると感じました。最後に何年生で学習した表現というのがあって、そういう事前学習、事後学習というのかな、その先でどんなことを学んでいくか、今までどういうことを学んできたか、その辺がしっかり書かれていて、この点で深い学びとつなげられると思いました。

啓林館は構成ガイドが初めに書かれて、どんなことを学ぶのか、学習を進めよう、振り返ろうという、3段階ですが段階が少ないと思います。アイコンは単純化されて見やすい。最後に掲載されているカードは、非常に使いやすいと思いました。

総合的に見て、深い学びとか今までの学習内容、これから学ぶ学習につなげられるという点で、私は光村図書出版がいいのではないかと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 非常に悩みました。今、渡邊委員が各者について、その特徴を詳しくお話ししてくださったので、違う話をしたいと思います。外国語には目標が3つあるわけですが、子どもたちには特に3つの中の英語で聞いたり話したりして外国語に親しんでいくこと、外国語を用いてコミュニケーションを図っていこうという、そういう意欲とか力をつけてあげたいと思うんですね。もうどの発行者も、ビジュアルにすごく力を入れていて、外国語に親しんでいけるような、そういった配慮がされていると思います。

できるだけ短い時間で話しますけれども、平成6年度に当時の文部省の短期派遣でドイツへ行ったんです。そのときに、東西のドイツが一緒になって、すぐ後の旧東ドイツへ行ったんですね。小学校の4年生で、それまでロシア語が、多分、第二外国語だったと思うんですけれども、英語の学習が始まったばかりのころの時代で、4年生の子どもたちがとても楽しく英語を勉強しているんですよ。教科書がないんです。机の上には何

も出てなくて、先生が、きのうは何して遊んだの、誰と遊んだの、どのぐらいの時間遊んで、何がおもしろかったとかということをや次から次へと聞いていく。それに対して、子どもたちがいろいろ英語で答えて、一緒に遊んでいた子どもがまた答えて、そういったことをしながら、今朝は何食べたというようなことから、また会話がどんどん膨らんでいく。子どもたちは非常に楽しそうに会話に参加する。その子の家庭環境によっては、英語がすごく日常的な子もいただろうし、全くそうじゃない子がいて、非常にレベルが違うんだけど、先生が気を遣いながら子どもたちと楽しい会話をして、英語でコミュニケーションするというのが、こんな楽しいことなんだよということを大事にした授業をしていたんですね。授業は、そういったものが大事にされていかなきゃいけないだろう。そういう視点で考えていったときに、その会話がはずむような、導入のようなものが一番多いのがどの会社なのか。そういう視点で見ると、教育出版が大きな絵で、例えば何か食堂の絵みたいのがあったりとか、絵からいろいろな話ができるような、そういう資料が出ているので、そういう視点で選ぶといいのかなと思いました。

ただ、例えば視聴覚教材によっても大分違うでしょうし、それから電子教科書を使って学習をすると、またいろんな可能性があると思うので、なかなかペーパーの教科書だけで判断しづらいというところがあって、実はいまだに悩んでいるところです。

以上です。

○竹内教育長 ほかにはいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 本当に難しいですね。

私、コミュニケーションの大切さ、子どもたちが生き生きとコミュニケーションしているということもとても大切だと思いながら、そしてそういう楽しさの中で授業が進んでいくことが望ましいとも思いながら、やはり学ぶべきことが掲載されていることが大切という視点で読ませていただきました。つまり、読むという視点も、もう少し未来にはあるはずで、その前段階として文法の大切さも捉えていてもらいたいということになるわけです。

私は、ですから最終的に光村図書出版を推薦することになったのも、その点でした。光村図書出版の教科書は、書き込む欄のスペースがゆったりしていて、落ちついたレイアウトになっていること。それから、イラストや、ページが醸し出すムードがよいと思いました。書くことや読むことの大切さも、すぐそのことによって追い詰められたりす

るのは困るんですけども、そのことの重要さはどこかに置かれているといいなという気がしています。

それで、私は光村図書出版を推薦します。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 私も、大変悩みましたけれども、私も光村図書出版がよいと感じております。以上です。

○竹内教育長 清水委員も悩まれています。

どうぞ。

○清水委員 光村図書出版のよさもあります。ほかの会社のよさもあるんですよ。すごく難しいです。例えば光村図書出版のよさというのは、5年生でイラストを見ながら道案内をしていくとかというのは、とてもよく、これから出会う場面かなと思うので、そういうものを載せているのは非常にいいなと思いました。

教室で使う英語の練習というのは、これは光村図書出版だけじゃなく、ほかの会社でも扱っているんですけども、実はとても大事ですよ。必ず授業の最初に使いますから。そういったものも大事にされているということで、光村図書出版はいいと思います。ほかもいいところはあるんですけどね。私がかこというふうには言い切れないというのは、最初にも申し上げたんですけども。皆さん、選んでいる光村図書出版というのは、私も教科書としてはよいと思います。

○竹内教育長 少し、私も意見を述べさせていただきます。

先ほど算数のところでもお話ししましたが、子どもたちが学ぶ意欲とか関心、興味をどういうふうに起こすかというのが、重要視している点だというふうに申しあげました。光村図書出版の教科書の中では、多様な外国の友達が結構シリーズで紹介されているんですね。そういう意味で、QRコードで読むと、その子の学校生活の時間だとか、そういうことを紹介されたりして、子どもたちが多様な世界の人とコミュニケーションをする、そこへの動機づけにもなるのではないかなというところがあって、私も総合的にはいろいろな面のよさ、各者あるとは感じてはいるんですが、皆様のご意見を伺った上でお諮りしたいと思います。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、総合的に判断して英語については光村図書出版を採択する教科書の候補に決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、英語にかかわる協議を終了いたします。

それでは、最後に特別の教科 道徳について協議を行います。

説明をお願いします。

○小澤統括指導主事 それでは、特別の教科 道徳についてご説明申し上げます。

特別の教科 道徳の教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの8者です。

教科の目標、内容項目につきましては、資料2、8ページ以降をご確認ください。

新学習指導要領の特別の教科 道徳の主な要点としては、道徳的価値を自分のこととして理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育への転換により子どもたちの道徳性を養うこと。いじめ問題への対応の充実など、発達を一層踏まえた体系的な内容への改善。個性の伸長、公平、公正、社会正義、国際理解、国際親善などを第1・第2学年に追加していること。第3・第4学年に相互理解、寛容、公平、公正、社会正義。また、第5・第6学年によりよく生きる喜びの内容項目を追加していること。情報モラルに関する指導の充実、生命倫理や社会の持続可能な発展などの現代的課題への対応などです。

採択協議会の協議では、別冊ノートについての扱いは、学年で授業づくりをするので、同じワークシートを使うこともあり、若手教員には使いやすい面がある。一方で、教員は授業の展開を工夫するので、工夫と合ったノートを使うことができないのは困るという面があると思う。教科書の大きさについては、大きいのは使いづらいが、B5判は小さくて見づらいという調査委員会からの意見があった。最終的には、児童に自分のこととして考えさせるには、児童に伝わるような言葉で教師が発問をしていく必要があるなどがありました。

これらのことから、採択協議会では、調査委員会から評価の高かった、東京書籍、光村図書出版、学研教育みらいをよいのではないかとするが、採択協議会の中ではどれかが抜き出ているという結論にはならなかったと協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書のよさや気になる点など、細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 それでは、各委員からご意見をお願いいたします。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 私は、東京書籍と光村図書出版の間でずっと揺れていました。

それから、各者のことを聞いていただく前に、一つ聞いていただこうと思うんですけども、いろんな教科書に『しあわせの王子』と『七つ星』のお話が出てくるんですね。それはとてもいいお話だとも思うんですけども、これからの時代というか、この年代の子どもに自分自身のことを大切にしてほしいと呼びかけたいこともあるので、これがこんなどこにもかしこにも出ているということは、どうなのかなというふうに思っていました。

学校図書です。学校図書は、第2学年の情報モラルの扱いの中、そこがとてもわかりやすく掲載されています。インターネットでの課金についても触れていて、それがどんな小さなところから始まって、大問題になってしまうかというような道筋もちゃんと捉えられています。全体的にテンションが高目ですね。元気がよくて明るい子どもたちがたくさん出てきて、しかし現代の子どもたちってさまざまな場面で悩みも抱えているので、それが、少し単純に思えてしまうというところがありました。

教育出版です。教育出版は、登場人物として取り上げられている人物や問題に深みがあります。いろんなことが当たり前じゃないという感覚を学ぶことができると思いました。どの単元でも、気づく、考える、深める、つなげるということが意識されています。道徳の教科書で、やはり決して抜かすことはできない、大事に取り上げなければいけないことにいじめのことがあるんですけども、いじめのことについてもしっかりと取り上げられています。

日本文教出版。日本文教出版は、心のベンチというページがあります。これはほっとできる教材ですね。心を穏やかにしながら学べるって、とても大切なことだと思うので、私はこの心のベンチはとても評価しています。いじめのことも詳しく掲載されています。特に第4学年では、いじめの4層構造について取り上げられ、第5学年になると、傍観者もいじめであるという視点から、どうしたら傍観者であることから仲介者になれるかということが具体的に学習できるようになっています。それから、もう一つ、こことてもいいなと思ったのは、平和のためにできることで、祈ることもその方法であるということが伝えられているところです。

光文書院。光文書院は、ささやかだけれども、大切なことも見逃さないという精神が随所にあらわれています。みんなで考える活動を取り扱っています。それから、お年寄りはずごいというページがあるんですけども、この視点の中に、それは確かにとても大事ですけども、高齢の人たちも、かつては自分と同じ子どもだったという視点があるといいなと思いました。それは必要なんじゃないかと思いました。

学研教育みらい。学研教育みらいは、この道德ノートというのを使うのが難しいのではないかなという感想を持っています。

それから、廣済堂あかつき。あかつきは、盛りだくさんの内容で構成されています。そして、道德の教科書としては、みっちりし過ぎているのではないかと感じるほどなんですけれども、そこはもう少し強弱があってもいいのではないかと思うところです。ただ、アンパンマンのやなせたかしや水木しげる、ネルソン・マンデラなどの教材は、もう少し読みたいと感じます。とてもすてきな人物が取り上げられているんです。ネルソン・マンデラについては、2番目の妻で、最後は離婚してしまったウィニー・マンデラのその後の活動なんかも、きっとそこで学べると思うので、取り上げ方がおもしろいなと思いました。

それから、光村図書出版。光村図書出版は、絵が美しくて落ちついています。これはどの教科書も、光村図書出版はそうですけれども。それで、ヨシタケシンスケの教材が取り上げられています。このヨシタケシンスケという人は、学校時代、何となく居場所をつくるのが難しい人だったそうで、そのことがとてもその漫画にもよくあらわれていて、それもとても美しい絵で、子どもたちに、児童に読ませてあげたい教材でした。情報と向き合う題材が、第1学年から第6学年まで通して取り上げられているところも評価の高いところです。

そして、東京書籍です。やはりバランスがいいですね。さまざまな扱いが丁寧で深く、複雑なことも扱っています。1つの題材を扱った後、みんなですぐに話し合うんじゃないくて、みんなで黙っているという、何かちょっといい雰囲気想像しました。私は、そのバランスのところとか複雑なところを逃げずに扱っているところ、それから今お話しした教室が静かになって、何となくみんなが共有する時間があるというような、そのあたりで東京書籍を推したいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 一番多い8者ですけれども、私は幾つか観点で見させていただいてきました。

まず第1に、各単元でどういう視点で扱っているか。2年前に、道徳の教科書を初めて採択したときにも、調査しているわけですが、まず自分自身のこと、他人と周りの人とのかかわり合い、社会や集団の内容、最後に生命、自然に関すること。その4つで構成されているわけです。それが各学年でどのように変遷しているのか、と観点があります。次に、人物を扱っているのは幾つの単元があるか、漫画とか図の単元。それから、各単元の最後のところに、つぶやきとか、こういうことを学んでいきましょうというガイドが出ています。ということで主にその4つの見方で見させていただいています。

まず、東京書籍に関しては、学年が上がるについて、自分自身の内容が初めのうちは多いのですが、だんだん社会のほうが多くなってきて、その点ではまずは身の回りから学ぼうという、学習の発達段階に対応して配慮されているということを感じます。人物については、他者に比べて13名と、割と少なく、その中でスポーツ選手が占めるのが2名なのです。スポーツ選手の扱いを少なくしていたと思います。それは、今活躍されている選手がその後どうなるかとか、その辺の心配というかな——ということを考えていないといけないと思って、現役の方々よりは、歴史的に名を挙げた方々が、多いほうが良いと思いました。

漫画とか図の教材は、この者は1学年では多いのですが、学年進行に従って、3年生と6年生で1個ずつと、非常に少ないんですね。そういう点で、漫画とか図で与えてしまうと、自分で考える余地がなくなってしまうという考え方がありますので、なるべく学年が進んだら少なくしてほしいと思います。そういう点では、東京書籍は、非常にうまくできているなというふうに思いました。

ガイドについても、項目は2つだけしか載っていないくて、発展性が、いろいろな考え方、多様性を引き出せると感じました。

ということで、東京書籍が私は一番良いと思いました。

学校図書については、分冊があって、分冊の使い方、それからそれに時間を余りかけられない中で、いろいろなことを書かなければならない。道徳の授業を見に行くと、何を書いたらいいかわからないという子どもたちが、結構多いのです。そういうところに時間をかけ過ぎるよりも、みんなで話し合っって多様性を出していくという点で、3者に分冊があるのですが、その点では余り書く部分を多くしないほうが良いかなという点で、

学校図書はどうかと思いました。それから、発達段階への配慮である、身の周りからはじめるということは余り感じられないということがあります。

教育出版ですが、ここも同じように社会にかかわる教材が非常に多くて、学年間の差が多くなる。そういう点では、発達段階での考慮、配慮というのは見られない。ここは登場人物が非常に多くて、全学年で33名を扱っています。最も多い。特に6学年は35単元中18名、半分近くは人物で占められていて、少し減らしてほしい。実は2年前は全部で12名だったのです。その反動かなというふうに思うのですが、人物に頼ってしまっているところが多いと思いました。

光村図書出版は、生命や自然の部分が少なく、発達段階に応じた配慮が余りされていないと感じます。漫画や図を中心にした教材が多くて、6年間で30あります。これは多いのではないかな。先ほど申し上げたように、学年が進んだら文章で学んで、そこからいろいろな考え方を引き出すという余地を残すという点で、漫画とか図という教材を中心にして学ぶよりも、学年が進んだら少なくしてほしいと感じました。

日本文教出版は、分冊になっていて、それに時間をとられやすい。それから、生命、自然に対する観点の単元が割と少なく、学年が進んだら、多くしてほしいと思います。

光文書院は、学年によるばらつきがあります。社会とのかかわりの部分は多くて、初めの学年から非常に多いと思いました。それから、40単元分の内容が出ています。採択したときに学校によってどれを選ぶか、差が出てくる可能性があるということで、学び方、学ばせ方の配慮をかなり必要とするということがあり、工夫が必要だと感じます。

学研教育みらいは、1学年、2学年という自分自身の言葉が多くて、3学年以降は社会とのかかわりは多いのです。そういう点では、子どもの発達段階に非常に考慮していると感じました。ただ、登場人物が、一番多くて全学年で35人出てくるわけですけども、人に頼っているところが問題です。漫画や図の教材も多くて、学年が進行するにつれて減っているのですが、6年でも2つほど出ているので、考慮していただきたいと思います。

最後に、廣済堂あかつきです。ここも分冊で、それに時間をかけず、子どもたちの意見をいかにして出していただくのかというところに、工夫をしていただきたい。ここは自分自身の考え、自分自身と身の周りに関する単元が多くて、6学年でも一番多い。そうすると、発達段階を考えると、自然や生命に関する内容を多くしてほしい。全体的に見渡して東京書籍が一番武蔵野市の子どもたちに合っていると感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 道徳において、児童が多面的・多角的に深く考え、深く議論していくような、そういう授業をしていくときに、先生がどういうことを子どもに聞くかということが、実はとても大切だと思います。そういうところで比べていったときに、東京書籍は『考えよう』ということで、大体2つ聞いているんですね。この2つが多いとか少ないとかというんじゃなくて、この聞いている中身がなかなかよいということと、実はここで聞いたことから、さらに次の質問、次の質問と要するに深めていく、そういったことが授業の中で行われていくべきだろうと。そういうことができるような、考えようというのになっているのが、東京書籍だと思いました。私も、東京書籍がよいと思います。

○竹内教育長 小出委員、どうぞ。

○小出委員 道徳は、考え、話し合うのが一番大切だと思っておりますので、武蔵野市の子どもたちには東京書籍が一番合っていると思っております。

○竹内教育長 ありがとうございます。

それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、特別の教科 道徳につきましては東京書籍を採択する教科書の候補に決定したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

これで特別の教科 道徳にかかわる協議を終了いたします。

それでは、以上で協議事項1、令和2年度使用小学校教科用図書採択の候補についてにかかわる協議を終了いたします。

これで本日の協議事項は終了いたしました。

ここで10分の間、休憩いたします。

午後 0時17分休憩

午後 0時27分再開

○竹内教育長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

◎議案第11号 令和2年度使用小学校教科用図書採択について

○竹内教育長 次に、議案に入りたいと思いますが、資料をお願いいたします。

資料はもう配られていますね。

それでは、議案第11号 令和2年度使用小学校教科用図書採択についてを議題といたします。

説明をお願いします。

指導課長。

○秋山指導課長 それでは、議案第11号 令和2年度使用小学校教科用図書採択について、ご説明いたします。

この議案は、令和2年度から5年度に使用する小学校教科書について採択をお願いするものでございます。

それでは、議案書をごらんください。

先ほどの協議の結果、決定いたしました種目ごとの教科書の候補につきまして確認し、説明にかえさせていただきます。

種目、発行者の順に読み上げてまいります。

国語、光村図書出版株式会社。

書写、光村図書出版株式会社。

社会、東京書籍株式会社。

地図、株式会社帝国書院。

算数、東京書籍株式会社。

理科、大日本図書株式会社。

生活、光村図書出版株式会社。

音楽、教育出版株式会社。

図画工作、開隆堂出版株式会社。

家庭、開隆堂出版株式会社。

保健、株式会社学研教育みらい。

外国語、光村図書出版株式会社。

道徳、東京書籍株式会社でございます。

なお、採択いただきました場合、この結果につきましては、8月31日までに東京都教育委員会に報告いたします。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○竹内教育長 ただいまの説明について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、ご意見、ご質問ございませんようでしたら、皆様にお諮りいたします。

議案第11号 令和2年度使用小学校教科用図書採択についてを議案のとおり決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

◎議案第12号 令和2年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳以外）採択
について

○竹内教育長 次に、議案第12号 令和2年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳以外）採択についてを議題といたします。

説明をお願いします。

○秋山指導課長 よろしいですか。

○竹内教育長 指導課長。

○秋山指導課長 それでは、議案第12号 令和2年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳以外）採択について、ご説明いたします。

この議案は、令和2年度に使用する中学校教科書について採択をお願いするものでございます。中学校については、令和3年度から新学習指導要領が全面実施されます。それに伴い、令和3年度から使用する教科書は来年度、令和2年度に採択を行います。つまり、今回の採択は1年間限定で使用する教科書の採択でございます。

また、今回の教科用図書採択では、全ての教科用図書が平成27年度採択時より内容の変更がされておられません。武蔵野市立小学校及び中学校教科用図書採択要綱第2条に、採択に関し必要な事項を協議するため、教科用図書採択協議会を設置する。ただし、文部科学省の検定を経た新たな教科用図書がない場合は、この限りではないと定められておりますので、教科用図書採択の手続を一部簡略化し、既存の調査資料を利用します。

8月8日に開催した臨時会では、平成27年度に採択した際の調査研究資料、採択協議会の協議内容の資料、そして現在使用している全中学校からの意見をもとに、ご協議い

いただきました。

臨時会における協議では、各学校からの意見を見ると、ほとんど問題がなく、多くの先生方が今の教科書でしっかりと教材研究を行い、授業に取り組んでいる。来年度、1年間だけの使用で、次は新たな教科書になるのだから、継続使用が適当である等の趣旨のご意見をいただき、現在使用している教科書を継続して使用することが望ましいと協議がまとまりました。

それでは、議案書をごらんください。

現在、中学校で使用している教科書を一覧にしたものでございます。

種目、発行者の順に読み上げてまいります。

国語、光村図書出版株式会社。

書写、光村図書出版株式会社。

社会（地理）、株式会社帝国書院。

社会（歴史）、東京書籍株式会社。

社会（公民）、東京書籍株式会社。

地図、東京書籍株式会社。

数学、東京書籍株式会社。

理科、東京書籍株式会社。

音楽（一般）、教育出版株式会社。

音楽（器楽）、教育出版株式会社。

美術、日本文教出版株式会社。

保健体育、株式会社学研教育みらい。

技術・家庭（技術）、開隆堂出版株式会社。

技術・家庭（家庭）、開隆堂出版株式会社。

英語、株式会社三省堂でございます。

なお、採択いただきました場合、この結果につきましても、8月31日までに東京都教育委員会に報告いたします。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○竹内教育長 事務局の説明について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○竹内教育長 それでは、ご意見、ご質問ございませんようでしたら、皆様にお諮りいたします。

議案第12号 令和2年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳以外）採択についてを、議案のとおり決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

◎閉会の辞

○竹内教育長 これをもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

令和元年第3回教育委員会臨時会を閉会いたします。

本日はお疲れさまでございました。

午後 0時33分閉会